

## パート 6

社会との関係深化と推進機能の強化の状況

(裏白紙)

Q601. 研究者の社会リテラシー（研究と社会との関わりについての認識）を向上する取組が十分に行われていると思いますか。

回答者グループ	2020年度調査											各年の指数					指数の変化						
	分らない		6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第1四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年
	1	2	3	4	5	6																	
大学・公的研究機関グループ	80	103	334	547	427	184	47	1,642	4.5	3.2	4.5	6.0	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	0.00	-0.02	0.00	0.00	-0.06
大学等	66	86	270	459	363	161	42	1,381	4.5	3.3	4.5	6.0	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	-0.01	-0.01	-0.02	-0.03	-0.07
公的研究機関	14	17	64	88	64	23	5	261	4.2	2.9	4.3	5.7	4.2	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	0.01	0.01	-0.05	0.21	-0.02
インバウンティン仲間グループ	74	49	165	202	80	17	2	515	3.4	2.5	3.7	4.8	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	0.03	0.01	-0.04	0.07	0.08
大企業	35	6	44	61	25	1	0	137	3.6	2.7	3.8	4.8	3.5	3.5	3.5	3.6	3.6	3.6	0.05	-0.05	0.13	-0.03	0.10
中小企業・大学発ベンチャー	22	16	33	48	9	1	1	108	3.1	2.2	3.5	4.4	3.1	2.9	3.1	3.0	3.1	3.1	-0.12	0.16	-0.09	0.05	-0.01
中小企業	10	8	17	27	4	1	0	57	3.1	2.3	3.5	4.4	3.1	3.0	3.2	3.0	3.1	3.1	-0.11	0.19	-0.11	-0.04	-0.07
大学発ベンチャー	12	8	16	21	5	0	1	51	3.1	2.2	3.5	4.5	3.0	2.9	3.0	2.9	3.1	3.1	-0.13	0.12	-0.08	0.14	0.04
橋渡し等	17	27	88	93	46	15	1	270	3.5	2.4	3.7	4.9	3.4	3.5	3.5	3.4	3.5	3.5	0.09	-0.03	-0.12	0.15	0.09
男性	134	134	448	670	454	185	46	1,937	4.3	3.0	4.3	5.7	4.3	4.3	4.3	4.2	4.3	4.3	0.00	0.01	-0.03	0.02	0.00
女性	20	18	51	79	53	16	3	220	4.1	2.9	4.2	5.5	4.3	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	-0.15	-0.07	0.06	-0.07	-0.23
社長・役員、学長等クラス	35	29	107	132	57	12	1	338	3.5	2.5	3.8	4.8	3.4	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	0.08	0.00	0.03	-0.02	0.10
部長、教授クラス	59	58	208	327	237	85	12	927	4.3	3.1	4.3	5.7	4.1	4.1	4.2	4.1	4.3	4.3	0.00	0.05	-0.04	0.12	0.13
主任研究員、准教授クラス	40	45	126	211	162	78	28	650	4.6	3.2	4.5	6.1	4.7	4.7	4.6	4.6	4.6	4.6	-0.01	-0.10	0.01	0.01	-0.09
研究員、助教クラス	14	16	37	62	43	24	8	190	4.5	3.1	4.5	6.1	4.7	4.6	4.7	4.6	4.6	4.5	-0.13	0.16	-0.12	-0.12	-0.20
その他	6	4	21	17	8	2	0	52	3.3	2.4	3.4	4.7	3.0	3.4	3.4	3.8	3.3	3.3	0.43	-0.03	0.43	-0.48	0.35
任期あり	44	50	163	226	122	51	8	620	4.0	2.7	4.0	5.4	4.2	4.2	4.1	4.0	4.0	4.0	0.02	-0.10	-0.08	-0.06	-0.22
任期なし	110	102	336	523	385	150	41	1,537	4.3	3.1	4.4	5.8	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	-0.04	0.05	0.00	0.03	0.05
学長・機関長等	1	3	36	44	34	8	0	125	4.1	3.0	4.2	5.5	4.1	4.1	4.1	4.2	4.1	4.2	-0.05	0.06	0.07	-0.07	0.01
マネジメント実務	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
現場研究者	75	89	271	455	348	159	44	1,366	4.5	3.2	4.5	6.0	4.6	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	-0.05	0.00	-0.02	0.03	-0.05
大規模PIの研究責任者	4	11	27	48	45	17	3	151	4.5	3.3	4.6	6.0	4.7	4.7	4.7	4.6	4.5	4.5	0.08	-0.01	-0.10	-0.12	-0.15
国立大学等	45	54	187	314	262	117	33	967	4.6	3.3	4.6	6.1	4.6	4.7	4.7	4.7	4.6	4.6	0.03	-0.02	0.05	-0.08	-0.01
公立大学	5	7	16	30	15	9	4	81	4.4	3.0	4.3	5.9	4.3	4.2	4.2	4.2	4.4	4.4	-0.10	0.07	-0.07	0.20	0.09
私立大学	16	25	67	115	86	35	5	333	4.3	3.1	4.4	5.8	4.6	4.5	4.5	4.3	4.3	4.3	-0.13	0.02	-0.18	0.04	-0.26
第1グループ	9	10	41	65	72	35	9	232	4.9	3.5	5.0	6.3	4.7	4.8	4.8	5.0	4.9	4.9	0.13	0.01	0.13	-0.02	0.25
第2グループ	19	20	57	100	96	33	8	314	4.6	3.4	4.7	6.0	4.7	4.7	4.7	4.7	4.6	4.6	0.00	-0.03	0.01	-0.14	-0.15
第3グループ	16	27	67	121	81	25	11	332	4.3	3.1	4.3	5.7	4.4	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3	-0.13	0.10	-0.05	-0.03	-0.11
第4グループ	21	26	94	163	101	62	12	458	4.5	3.2	4.4	6.0	4.6	4.6	4.5	4.4	4.5	4.5	0.01	-0.05	-0.09	0.06	-0.07
理学	7	14	39	61	52	22	5	193	4.5	3.1	4.5	6.0	4.7	4.5	4.6	4.7	4.5	4.5	-0.12	0.10	0.06	-0.24	-0.20
工学	25	18	64	124	109	63	22	400	5.0	3.6	4.9	6.4	5.0	5.0	4.9	4.9	5.0	5.0	-0.01	-0.04	-0.03	0.10	0.01
農学	6	14	30	58	44	20	3	169	4.4	3.2	4.5	5.9	4.5	4.4	4.5	4.5	4.4	4.4	-0.06	0.06	-0.04	-0.04	-0.07
保健	22	27	84	137	82	29	7	366	4.1	2.9	4.2	5.5	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	4.1	-0.02	-0.02	-0.05	0.04	-0.05
あり(過去3年間)	44	38	126	161	61	14	1	401	3.5	2.5	3.7	4.7	3.4	3.4	3.5	3.4	3.5	3.5	0.02	0.07	-0.05	0.01	0.05
なし	30	11	39	41	19	3	1	114	3.4	2.4	3.6	4.8	3.2	3.2	3.0	3.0	3.4	3.4	0.08	-0.26	0.05	0.39	0.25
あり(過去3年間)	29	11	45	74	27	3	0	160	3.6	2.7	3.9	4.8	3.2	3.2	3.3	3.3	3.6	3.6	0.09	0.05	0.03	0.25	0.42
なし(分からない)	42	18	69	65	22	6	2	182	3.3	2.3	3.4	4.6	3.4	3.4	3.4	3.3	3.3	3.3	-0.07	0.01	-0.07	0.00	-0.14
全回答者(属性無回答を含む)	154	152	499	749	507	201	49	2,157	4.2	3.0	4.3	5.7	4.3	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	-0.02	0.00	-0.02	0.01	-0.02

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)～6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものの、指数の範囲は0.0ポイント(不十分)～10.0ポイント(十分)となる。

Q601. (意見の変更理由)研究者の社会リテラシー(研究と社会との関わりについての認識)を向上する取組が十分に行われていると思いますか。

	2019	2020	差	
1	2	4	2	内閣府などが注力して、政策提言できる研究を後押ししている。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
2	4	6	2	研修の受講チェックは厳しい(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
3	2	3	1	異分野連携(特に人社系と理系の連携)は意識されてきているが、まだまだ担当できる研究者が少ない。次の世代の研究者を育てる教育カリキュラム・研究プログラムが十分ではない。(大学,部長・教授等クラス,男性)
4	3	4	1	大学や学会活動自体が社会への学問的成果の発表に対してより積極的になっていることから、研究者が専門知識を持たない人たちと接する機会が増えている。このことは研究者が社会とのかかわりや研究の社会的意義を考えるよい機会となると思われる。(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)
5	3	4	1	ELSIが始動(大学,第1G,工学,社長・学長等クラス,男性)
6	3	4	1	最近規範がつけられた(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
7	4	5	1	取り組みは十分である。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
8	2	3	1	取り組み自体は行われている。機能しているとは考えにくい。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,女性)
9	3	4	1	頑張っって取り組んでいる。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
10	3	4	1	〇〇大学よりも〇〇〇〇【公的研究機関】の方が取り組みに優れている(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
11	2	3	1	e-learningなど、組織としての取り組みに改善傾向が見られる。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
12	3	4	1	認識を向上させるための研修会が増えた(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
13	2	3	1	分野にもよると思うが、私の専門分野では社会経済活動と関わるテーマが重要になってきている。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
14	2	3	1	昨今、様々な大学や研究機関で施設公開を行うようになってきたと思う。私が所属する研究機関でも、年数回のイベントを行っているが、準備にかかる時間が年々増加する傾向にある。しかし、それによって社会一般の理解が以前よりも深まったかといえば、必ずしもそうではない。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
15	3	4	1	研究成果を社会に向けて発信し、社会還元や実装を志向する姿勢が定着し、効果を上げている事例も多数見られる、上方修正した。(公的研究機関,その他,男性)
16	4	5	1	GAPファンド等がスタートし、取り組みが向上していると思います。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
17	1	2	1	AIで研究倫理が議論される様になったことは良い進歩と思うが、多くの企業・研究者が無関心。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
18	2	3	1	地域との連携で少しは増えていると考える。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
19	2	3	1	取り組み状況は、把握しているが未だに不十分を感じる(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
20	3	4	1	共同研究では大学側での教育が充実化していると感じることがある。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
21	3	4	1	具体的取り組みについては不知であるが、社会がそのような方向に導いている。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
22	2	3	1	医師の目でソフトを開発し、医療現場で求められる感覚をCGに反映させる起業家の方は、医学とデジタルといったデュアルの統合で、社会にインパクトを与えている。今後もこのような方ができることを期待したい。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
23	1	1	0	研究者は、質問すれば必ず自分の研究の社会的意義について答えられるはずである。しかし、実際にはそうならない。つまり机上の空論となっている。きちんと研究成果を社会に実装した研究者を評価して、そのような活動の重要性を通じて、研究者がそのような活動を通じて社会リテラシーをあげる活動を推進すべきである。(大学,部長・教授等クラス,男性)
24	1	1	0	大学の研究員を見ていると「書類は出せばいい」というだけで不正確な書類を出すことがあり、また、受け取る側も「書類は受け取ればいい」という立場の研究員も多い。(大学,部長・教授等クラス,男性)
25	2	2	0	社会リテラシー向上は十分とは言えないが、少しは向上してきている。(大学,その他,男性)
26	3	3	0	ある程度科目が用意され、実施されているが、現在その強化に向けて検討中である。(大学,第1G,社長・学長等クラス,男性)
27	2	2	0	具体的な取り組みが思い浮かばない。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
28	5	5	0	弊学では度々研修を行っています。また自由裁量性の雇用であるため、望めば自分で日帰りの研修も受けれます。有給を取って研修を受けることもあります。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
29	1	1	0	研究者の社会リテラシーとは何かを先に定義すべきではないか(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
30	6	6	0	理工学に弱いマスコミ記者が研究者の言い分を鵜呑みにして、宣伝しすぎる。マスコミ界に理工学に強い記者が必要。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
31	2	2	0	講演会やシンポジウムが行われていますが、魅力的でないものが多いです。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
32	1	1	0	まったく足りていないと思う(民間企業等,社長・学長等クラス,女性)
33	2	2	0	・人としての教養や歴史(歴史観,世界観,国家観,人生観)や思想・哲学の視点の教育がほとんどとされていない(民間企業等,その他,男性)
34	2	1	-1	研究成果が論文の数と質に偏りすぎているように思う。社会的な価値に重きを置いた評価があつて良い。(大学,部長・教授等クラス,男性)
35	4	3	-1	大学での取り組みは断片的である。(大学,第2G,その他,男性)
36	2	1	-1	そのような取り組みは不足している。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
37	3	2	-1	新たな組織改革が、時代に逆行するよう思えることもある。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)

38	4	3	-1	研究者の業績評価に社会との関わりを評価する項目が少ないので、だんだん蔑ろになっているように感じている。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
39	5	4	-1	頑張っている学者と,足を引っ張っている学者が両極端。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
40	4	3	-1	分野による(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
41	3	2	-1	研究成果の評価の仕組みが十分ではなく,総合科学技術・イノベーション会議の発信力が低下していると感じている.各分野の有識者を束ねる組織が必要.学術会議の委員の選考方法(縁故選抜のみ)にも問題が多く,学術団体としての公平性や透明性に欠けるため,研究成果の評価組織としては不向き.(公的研究機関,社長・学長等クラス,女性)
42	3	2	-1	政治とサイエンス,政治と学問の関わりから,社会リテラシーに距離をとる傾向が見られる。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
43	4	3	-1	取組はしているようだが,成果に表れてきていない。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
44	3	2	-1	研究成果による社会的インパクトを多面的に評価する仕組みについては,そもそももっと議論を活性化する必要がある.重要性は指摘されているが,ほとんど評価の改良が実現されないので,リテラシーはより低下しつつある。(公的研究機関,部長・教授等クラス,女性)
45	2	1	-1	今般の菅総理による学術会議任命拒否によってリテラシー向上などという文言は何の有意性もなくなった。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
46	3	2	-1	企業の研究レベルが,わかっていない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
47	3	2	-1	研究者を支援する組織が無能。(民間企業等,その他,男性)
48	3	2	-1	研究者が自身の口で言うほどには十分ではない。(民間企業等,その他,女性)
49	3	1	-2	専門的研究の社会的価値を判断できるのはほぼ専門を一にする研究者だけである.この問題の解決は困難である。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
50	3	1	-2	研究分野の縦割り感を強く感じる.学際的にはなれずにいるように思える。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)

Q602. 科学技術の社会実装に際しての倫理的・法制的・社会的課題を解決するための、人文・社会科学及び自然科学の連携による取組が十分に行われているか。

回答者グループ	2020年度調査												各年の指数					指数の変化			
	6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第1四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年
	1	2	3	4	5	6															
大学・公的研究機関グループ	159	183	475	525	240	108	32	1,563	3.6	2.4	3.7	5.0	3.7	3.6	3.6	-0.07	0.00	-0.05	0.00	-0.11	
大学等	131	149	381	450	210	96	30	1,316	3.7	2.5	3.8	5.1	3.8	3.7	3.7	-0.06	0.01	-0.03	-0.03	-0.11	
公的研究機関	28	34	94	75	30	12	2	247	3.2	2.2	3.3	4.6	3.3	3.1	3.0	-0.13	-0.04	-0.11	0.17	-0.10	
イノベーション推進グループ	90	64	203	167	51	12	2	499	3.0	2.2	3.2	4.4	2.9	3.0	2.9	0.03	-0.02	-0.01	0.07	0.07	
大企業	35	9	48	59	18	3	0	137	3.4	2.5	3.7	4.6	3.1	3.3	3.2	0.14	-0.09	0.14	0.08	0.27	
中小企業・大学発ベンチャー	27	16	46	35	5	1	0	103	2.6	2.0	3.0	4.1	2.9	2.7	2.8	0.22	0.11	-0.22	0.02	-0.30	
中小企業	15	9	26	15	1	1	0	52	2.4	1.9	2.8	3.8	3.1	2.6	2.8	-0.45	0.20	-0.41	0.02	-0.64	
大学発ベンチャー	12	7	20	20	4	0	0	51	2.8	2.1	3.2	4.3	2.8	2.8	2.8	-0.04	0.05	-0.02	0.02	0.01	
橋渡し等	28	39	109	73	28	8	2	259	2.9	2.1	3.1	4.4	2.8	2.9	2.9	0.08	-0.03	0.00	0.08	0.13	
男性	219	223	602	626	264	106	31	1,852	3.5	2.3	3.6	4.8	3.5	3.5	3.5	-0.04	0.00	-0.03	0.01	-0.06	
女性	30	24	76	66	27	14	3	210	3.4	2.3	3.5	4.8	3.5	3.5	3.4	-0.03	0.04	-0.07	-0.01	-0.07	
社長・役員・学長等クラス	39	49	129	117	31	8	0	334	2.9	2.1	3.2	4.4	3.1	3.1	3.0	-0.01	-0.13	0.00	-0.03	-0.17	
部長・教授クラス	92	103	278	317	133	54	9	894	3.5	2.4	3.7	4.9	3.5	3.4	3.5	-0.04	0.03	-0.01	0.07	0.05	
主任研究員・准教授クラス	81	69	193	193	92	42	20	609	3.7	2.4	3.7	5.0	3.8	3.8	3.7	-0.01	-0.03	-0.05	-0.02	-0.12	
研究員・助教クラス	29	18	55	52	30	16	4	175	3.8	2.4	3.8	5.3	3.8	3.7	3.8	-0.09	0.19	-0.17	0.12	0.05	
その他	8	8	23	13	5	0	1	50	2.8	2.0	2.9	4.2	2.6	2.5	2.6	-0.05	0.05	0.33	-0.17	0.17	
任期あり	66	77	213	192	86	27	3	598	3.3	2.2	3.4	4.7	3.4	3.5	3.4	-0.09	-0.15	0.02	-0.17	0.03	
任期なし	183	170	465	500	205	93	31	1,464	3.6	2.4	3.7	4.9	3.6	3.6	3.6	0.08	0.04	0.01	0.00	-0.03	
学長・機関長等	3	11	44	44	22	2	0	123	3.3	2.4	3.6	4.7	3.4	3.4	3.3	-0.13	0.05	0.02	-0.04	-0.10	
マネジメント実務	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
現場研究者	148	151	389	432	194	95	32	1,293	3.7	2.4	3.7	5.0	3.8	3.7	3.7	-0.05	0.00	-0.05	0.02	-0.09	
大規模PIの研究責任者	8	21	42	49	24	11	0	147	3.5	2.3	3.7	4.9	3.8	3.6	3.6	-0.21	0.04	-0.05	-0.09	-0.31	
国立大学等	89	105	288	318	146	66	20	923	3.7	2.4	3.8	5.0	3.8	3.8	3.8	-0.03	-0.03	0.01	-0.08	-0.13	
公立大学	10	9	21	30	5	7	4	76	3.8	2.5	3.8	4.8	3.5	3.6	3.8	0.10	0.15	-0.22	0.22	0.25	
私立大学	32	35	92	102	59	23	6	317	3.8	2.5	3.8	5.2	3.9	3.7	3.8	-0.19	0.11	-0.12	0.04	-0.15	
第1グループ	27	18	51	76	41	21	7	214	4.2	2.8	4.2	5.6	4.0	4.0	4.0	-0.01	0.07	0.19	-0.05	0.19	
第2グループ	32	32	83	105	52	24	5	301	3.8	2.5	3.9	5.2	4.0	4.0	3.9	0.01	-0.11	-0.02	-0.06	-0.17	
第3グループ	33	46	100	110	37	17	5	315	3.3	2.2	3.5	4.7	3.5	3.4	3.3	-0.17	0.14	-0.12	-0.04	-0.18	
第4グループ	38	48	127	147	75	33	11	441	3.8	2.5	3.8	5.2	3.9	3.9	3.8	-0.05	-0.05	-0.07	0.02	-0.15	
理学	28	22	48	59	28	12	3	172	3.6	2.4	3.8	5.0	3.8	3.8	3.6	-0.03	0.06	-0.07	-0.15	-0.19	
工学	45	41	83	131	64	41	20	380	4.2	2.8	4.2	5.8	4.2	4.1	4.2	-0.03	0.02	-0.01	0.07	0.05	
農学	12	18	56	52	23	12	2	163	3.5	2.3	3.6	4.9	3.8	3.8	3.6	0.00	-0.13	-0.02	-0.11	-0.25	
保健	36	42	114	124	49	20	3	352	3.4	2.3	3.6	4.8	3.5	3.4	3.4	-0.07	0.01	-0.04	0.04	-0.07	
あり(過去3年間)	56	53	153	130	42	10	1	389	3.0	2.1	3.2	4.4	2.9	3.0	3.0	0.07	0.01	-0.01	-0.01	0.07	
なし	34	11	50	37	9	2	1	110	3.0	2.2	3.1	4.3	2.9	2.7	2.6	-0.16	-0.19	-0.02	0.45	0.08	
あり(過去3年間)	40	20	51	60	14	4	0	149	3.1	2.2	3.4	4.5	2.9	3.0	2.9	0.15	-0.13	0.05	0.13	0.20	
なし(分からない)	41	19	82	64	13	4	1	183	3.0	2.2	3.1	4.3	3.1	2.9	3.0	-0.21	0.15	-0.13	0.08	-0.12	
全回答者(属性無回答を含む)	249	247	678	692	291	120	34	2,062	3.5	2.3	3.6	4.8	3.5	3.5	3.5	-0.04	0.00	-0.04	0.01	-0.06	

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものの、指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q602. (意見の変更理由)科学技術の社会実装に際しての倫理的・法制度的・社会的課題を解決するための、人文・社会科学及び自然科学の連携による取組が十分に行われていると思いますか。

	2019	2020	差	
1	2	5	3	日本学術会議のような、偏った機関になるのなら必要ない(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
2	2	4	2	ELSIが始動(大学,第1G,工学,社長・学長等クラス,男性)
3	2	4	2	COVID-19の後、分野を超えた議論が始まっているように感じる(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
4	1	3	2	連携を促進するような財源が一部に出てきているようです。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
5	2	4	2	ELSIに対して意識が高まっている。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
6	1	3	2	いくつかの大学で取組まれつつある。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
7	2	3	1	少なくとも身の回りの教員の意識の変化を感じる機会が増えた(大学,部長・教授等クラス,男性)
8	2	3	1	自然科学が含む倫理的社会的問題の検討に人文・社会科学の研究が活かされていない。(大学,第1G,社長・学長等クラス,男性)
9	2	3	1	最近では人文分野による科学コミュニケーションの講座なども立ち上がっているようです。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
10	2	3	1	不明な組織が増えたが,それはいろんな意味で多様化になっていると判断した。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
11	2	3	1	文系と理系の共同作業が増えつつある(大学,第3G,保健,社長・学長等クラス,男性)
12	2	3	1	前の所属では文理連携の生命社会学なるカリキュラムを構築した。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
13	2	3	1	ELSIの取り組みが理工系にも見えるようになってきた(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
14	2	3	1	例えば,無人航空機利用や災害対応・防災分野で人文・社会科学と自然科学・技術の連携が拡充してきている(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
15	2	3	1	新型コロナが契機となり,分野を超えた議論は活性化しつつあると思う。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
16	1	2	1	原発や電波の安全性に関するリスクコミュニケーションに関し,連携が散見される。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
17	3	4	1	文理融合を背景にした取り組みが,かなり浸透していることをうかがわせる事例が増えてきているため,上方修正した。(公的研究機関,その他,男性)
18	1	2	1	技術・研究倫理の理解は進んできたようには感じる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
19	2	3	1	人文系と自然科学系の連携・融合の事例は増えつつあると思う。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
20	2	3	1	全く十分とは言えないが,活動は広がってきている(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
21	2	3	1	次期基本計画で意識が向上している(民間企業等,部長・教授等クラス,女性)
22	1	1	0	科研費等でもそうであるが,人文・社会科学及び自然科学の連携による取組に対して,もっと予算をつけるべきである。(大学,部長・教授等クラス,男性)
23	2	2	0	理系と文系の研究者間の連携の方法がわからない。(大学,その他,男性)
24	1	1	0	文理融合は十分ではない。(大学,その他,男性)
25	3	3	0	工学教育に限定すればカリキュラムの中で系統的な取り組みが必要で,人文科学とのさらなる連携が必要(大学,第2G,その他,男性)
26	2	2	0	具体的な取り組みが思い浮かばない。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
27	2	2	0	学生の時に,学問のバックグラウンドが異なる学生寮のような空間で過ごすことにより,異分野の「ものの見方」を養うことができ,ひいては,人文・社会科学及び自然科学の連携につながると思われる。しかし,近年そのような学生寮のような空間は,失われつつある。現存するものは大事にすることが必要と考える。(大学,第4G,農学,研究員・助教クラス,男性)
28	1	1	0	科学技術政策に対する人文・社会科学(いわゆる文系)の発言が極端に少ないと感じる。もっと積極的に意見表明すべき。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
29	1	1	0	学術会議の任命の件を見ていると,人文社会科学と自然科学の連携は全く取れていないと考えざるを得ません。人文系にイデオロギー偏向が見られ,純粋な自然科学の発展を阻害しているのではないのでしょうか。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
30	4	4	0	未経験のことは誰にも分らない。あまりに規制を掛ける取り組みは?(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
31	5	4	-1	意識付けがまだまだ必要と思われます。(大学,社長・学長等クラス,男性)
32	3	2	-1	社会実装の場面では,一般社会に阿る面もみられ,社会学者が考える「科学」に疑問を持つこともある。(大学,部長・教授等クラス,男性)
33	3	2	-1	研究倫理教育等の広がり,取り進めが,思ったより進んでいないように感じる。(大学,その他,男性)
34	3	2	-1	人文・社会科学が全体的に弱くなってないか?自然科学の連携も,本体がある程度しっかりしてないと。(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
35	4	3	-1	連携はしているが十分に機能しているとは言い難い。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
36	3	2	-1	プライバシーに関わるデータ収集に関わる研究開発において,法的解釈を伴う場面で法律の専門家の助言をいただきたいことがあるが,必ずしもそのような助言が学内での研究開発活動として認知されておらず,促進する仕組みがないと考えています。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
37	3	2	-1	分野にもよるが,技術だけでなんとかするという気持ちが強すぎる部分がある。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)

38	3	2	-1	まだまだ不足していると感じられる。(公的研究機関, 社長・学長等クラス, 男性)
39	2	1	-1	専門研究者の配置が足りないから(公的研究機関, 主任研究員・准教授クラス, 女性)
40	2	1	-1	倫理的・法制度的・社会的課題の重要性を官公庁が理解していないと感じます。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
41	2	1	-1	学術会議がその役目を負っていない現状, 新たな連携体制を作るべき。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
42	4	3	-1	新技術の社会実装での安全検討などにおいて, 物理的リスクや社会的リスクへの対策で両分野で共同で検討することで加速できる仕組みがあってもよいと感じる。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
43	3	2	-1	首記課題に対する重要性が上がっていると感じるが, その解決に対するスピードが上がっていないと感じる。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
44	4	3	-1	取組自体は実施されていると感じます。一方で領域融合研究がますます増加する現状を鑑みると, 取り組みの質・量を効果的に推進する検討も更に必要かと感じます。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
45	2	1	-1	課題は2つ, 1. リーダーの倫理観, 判断基準, 2. リーダーが間違った行動を起こしたとき, 現場が申し立てる環境・保護が必要。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
46	4	2	-2	医学系の倫理審査委員会のみ。工学系に対応するものはほぼないと考える。(大学, 第3G, 主任研究員・准教授クラス, 男性)
47	4	2	-2	マスコミが重用しているだけの無能な自称研究者が政策決定に口出ししており, 歪んだ方向に進んでいる。(大学, 第4G, 部長・教授等クラス, 男性)
48	4	2	-2	人文社会科学と自然科学の連携の機会がほとんどなくなっている。(大学, 第4G, 理学, 主任研究員・准教授クラス, 男性)
49	4	2	-2	文理融合は求められているほどは進んでいないように感じられる。(大学, 第4G, 農学, 部長・教授等クラス, 男性)
50	4	1	-3	基礎科学の社会実装を研究者に要求すべきではない。(公的研究機関, 社長・学長等クラス, 男性)

Q603. 科学技術イノベーションと社会との関係について、多様なステークホルダー(研究者、国民、メディア等)が双方向で対話・協働することにより、政策形成や知識創造に結びつけるための取組が十分に行われていると思いますか。

回答者グループ	2020年度調査											各年の指数						指数の変化				
	分らない	6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第1四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年
		1	2	3	4	5	6															
大学・公的研究機関グループ	182	188	514	498	237	81	22	1,540	3.4	3.6	4.8	3.7	3.5	3.5	3.4	3.4	-0.13	0.01	-0.06	-0.04	-0.22	
大学等	153	156	430	408	211	68	21	1,294	3.5	3.6	4.9	3.7	3.6	3.6	3.5	3.5	-0.11	-0.01	-0.04	-0.05	-0.22	
公的研究機関	29	32	84	90	26	13	1	246	3.2	3.5	4.6	3.5	3.2	3.3	3.2	3.2	-0.21	0.10	-0.15	0.05	-0.21	
イノベーション推進グループ	72	81	215	165	43	11	2	517	2.8	3.0	4.3	2.9	2.9	2.9	2.8	2.8	-0.01	-0.01	-0.03	-0.06	-0.11	
大企業	27	9	58	54	19	5	0	145	3.4	3.5	4.6	3.2	3.2	3.2	3.4	3.4	0.08	-0.01	0.06	0.07	0.20	
中小企業・大学発ベンチャー	22	24	46	31	4	3	0	108	2.4	2.8	3.9	2.7	2.6	2.6	2.5	2.4	-0.10	-0.02	-0.07	-0.06	-0.25	
中小企業	11	12	25	15	3	1	0	56	2.4	2.7	3.9	2.7	2.5	2.5	2.4	2.4	-0.24	0.05	-0.07	-0.03	-0.28	
大学発ベンチャー	11	12	21	16	1	2	0	52	2.5	1.7	2.8	2.7	2.7	2.6	2.5	2.5	0.02	-0.08	-0.07	-0.10	-0.23	
橋渡し等	23	48	111	80	20	3	2	264	2.7	1.9	2.9	2.9	2.9	2.9	2.8	2.7	-0.03	-0.01	-0.05	-0.12	-0.21	
男性	217	241	652	605	249	84	23	1,854	3.3	3.4	4.7	3.5	3.4	3.4	3.3	3.3	-0.08	0.00	-0.05	-0.04	-0.17	
女性	37	28	77	58	31	8	1	203	3.2	3.3	4.7	3.5	3.2	3.3	3.2	3.2	-0.29	0.08	0.01	-0.12	-0.32	
社長・役員、学長等クラス	36	50	124	125	29	9	0	337	2.9	2.1	3.3	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	-0.03	-0.04	0.00	-0.05	-0.13	
部長、教授クラス	91	109	324	288	127	41	6	895	3.3	3.4	4.7	3.4	3.4	3.3	3.3	3.3	-0.08	-0.01	-0.09	0.04	-0.14	
主任研究員、准教授クラス	89	69	207	191	88	32	14	601	3.5	3.5	4.9	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	-0.11	-0.01	0.02	-0.10	-0.20	
研究員、助教クラス	31	30	55	46	29	9	4	173	3.4	2.1	3.4	3.7	3.5	3.6	3.5	3.4	-0.20	0.17	-0.15	-0.12	-0.30	
その他	7	11	19	13	7	1	0	51	2.7	1.8	2.9	2.4	2.9	2.7	3.0	2.7	0.48	-0.14	0.26	-0.25	0.33	
任期あり	70	84	209	198	73	26	4	594	3.2	2.2	3.4	3.4	3.3	3.3	3.2	3.2	-0.09	-0.05	-0.07	-0.03	-0.24	
任期なし	184	185	520	465	207	66	20	1,463	3.3	3.4	4.7	3.5	3.4	3.4	3.4	3.3	-0.10	0.03	-0.04	-0.06	-0.17	
学長・機関長等	4	11	41	47	17	6	0	122	3.4	2.5	3.7	3.5	3.3	3.4	3.5	3.4	-0.13	0.08	0.09	-0.07	-0.04	
マネジメント実務	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
現場研究者	165	160	428	410	189	68	21	1,276	3.4	2.3	3.5	3.7	3.5	3.5	3.4	3.4	-0.13	0.00	-0.06	-0.04	-0.22	
大規模PIの研究責任者	13	17	45	41	31	7	1	142	3.6	2.4	3.7	3.9	3.7	3.6	3.6	3.6	-0.13	0.02	-0.18	0.00	-0.30	
国立大学等	108	113	292	283	149	51	16	904	3.5	2.3	3.6	3.8	3.7	3.6	3.6	3.5	-0.10	-0.06	0.01	-0.11	-0.26	
公立大学	9	7	33	22	10	5	0	77	3.3	2.3	3.3	3.2	3.2	3.3	3.2	3.2	0.01	0.13	-0.13	0.08	0.10	
私立大学	36	36	105	103	52	12	5	313	3.5	2.3	3.6	3.6	3.4	3.5	3.4	3.5	-0.21	0.09	-0.13	0.07	-0.18	
第1グループ	30	24	60	68	40	12	7	211	3.8	2.5	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	-0.08	-0.10	0.09	-0.07	-0.16	
第2グループ	41	35	93	94	50	15	5	292	3.5	2.3	3.7	3.9	3.8	3.7	3.7	3.5	-0.12	-0.06	-0.03	-0.18	-0.39	
第3グループ	37	46	105	99	44	14	3	311	3.3	2.2	3.4	3.4	3.3	3.3	3.3	3.3	-0.18	0.06	-0.04	-0.02	-0.20	
第4グループ	43	43	155	141	69	24	4	436	3.5	2.4	3.6	3.6	3.5	3.5	3.4	3.5	-0.09	0.06	-0.09	0.04	-0.08	
理学	29	21	62	52	26	8	2	171	3.3	2.3	3.4	3.6	3.5	3.6	3.5	3.3	-0.13	0.11	-0.04	-0.19	-0.26	
工学	45	49	108	112	74	24	13	380	3.8	2.4	3.8	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	-0.03	-0.04	-0.03	-0.03	-0.13	
農学	16	22	57	52	19	7	2	159	3.2	2.2	3.3	3.5	3.3	3.3	3.2	3.2	-0.18	-0.04	0.00	-0.03	-0.25	
保健	48	37	123	117	46	16	1	340	3.3	2.3	3.5	3.5	3.3	3.3	3.3	3.3	-0.20	0.01	-0.05	0.04	-0.19	
産学官連携活動あり(過去3年間)	42	60	170	130	33	9	1	403	2.8	2.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.8	2.8	0.02	0.03	-0.07	-0.12	-0.14	
なし	30	21	45	35	10	2	1	114	2.8	1.9	3.0	2.7	2.5	2.3	2.5	2.8	-0.17	-0.22	0.19	0.26	0.06	
大学・公的研究機関の知財活用(企業等)	31	19	63	52	19	5	0	158	3.1	2.2	3.3	3.0	3.1	3.0	3.1	3.0	0.15	-0.10	0.01	0.07	0.13	
なし(分らない)	34	30	80	62	12	5	1	190	2.8	2.0	3.0	2.9	2.6	2.8	2.7	2.8	-0.30	0.15	-0.07	0.10	-0.12	
全回答者(属性無回答を含む)	254	269	729	663	280	92	24	2,057	3.3	2.2	3.4	3.5	3.4	3.4	3.3	3.3	-0.10	0.00	-0.05	-0.05	-0.19	

注1: 回答者数は、分らないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものの、指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q603. (意見の変更理由)科学技術イノベーションと社会との関係について、多様なステークホルダー(研究者、国民、メディア等)が双方向で対話・協働することにより、政策形成や知識創造に結びつけるための取組が十分に行われていると思いますか。

2019	2020	差	
1	2	4	2 COVID-19の後、分野を超えた議論が始まっているように感じる(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
2	2	4	2 ムーンショット提案に期待する。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
3	2	4	2 新型コロナウイルス感染症対策の際に,メディアが国民の不安や政府の対応の批判ばかりで余計に悪い方に進んだように思われるので,「対話・協働」も良し悪しである。(大学,第4G,農学,研究員・助教クラス,男性)
4	3	5	2 補助金事業によりこの観点は進んでいる。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
5	2	3	1 コロナ感染という状況下で,メディアと研究者の対話が進んだと感じている。(大学,第1G,農学,部長・教授等クラス,女性)
6	2	3	1 多くの研究コミュニティーなどで,タウンミーティングなどの市民参画型企画が行われるようになってきた。しかし政策形成などに結び付いているかは甚だ疑問である。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
7	2	3	1 IT,ネットを使った情報の発信,拡散は良いだけでなく,誤情報の拡散のように悪い場合もあると思うが,全体的には良い方向かと思う。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
8	2	3	1 マイクロプラスチックなど,環境問題への取り組みが評価できる(大学,第3G,工学,研究員・助教クラス,男性)
9	1	2	1 増やそうという努力は進んでいる(大学,第3G,保健,社長・学長等クラス,男性)
10	3	4	1 新型コロナの影響でオンラインでいろんなシンポジウムに参加しやすくなった(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
11	3	4	1 ○○大学よりも○○○○【公的研究機関】の方が取り組みに優れている(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
12	3	4	1 公正研究推進の動きは顕在化してきている。(公的研究機関,その他,男性)
13	2	3	1 双方向の協働の場が,目に見えて増加した印象を受けるため,上方修正した。(公的研究機関,その他,男性)
14	1	2	1 最近若干の取り組みが見えてきた(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
15	1	2	1 対話の重要性は理解されつつある。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
16	1	2	1 人は,自分が体感できる,いまそこにある危機でないと,動かない,ましてやどのような科学技術が自分達の生活に,どう紐づけされて,自分らが抱える課題を解決するのか(できる可能性があるのか),そのイメージがわからないと思われる。よって,まずは,科学技術の有効性を知ってもらい,可能性を感じてもらうためにも,定期的な政策会議に巻き込んだほうが良い。昨年の例で,市民での防災計画策定会議の提案があり,公共機関の限界を知り,県の支援のもと,自分たちで相互支援する動きがあった。最新の救援装置や道具,情報発信ツール,避難所への自動施錠解除,モニタリングの仕組みなど,日ごろ気が付かないが有効性が高いイノベティブなツールと仕組みを知ることで,命を守るための「創造力」が,醸成される。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
17	1	1	0 このような機会が少ないため,十分ではない。(大学,その他,男性)
18	2	2	0 思わないが,それが必要であるとも思えない。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
19	4	4	0 昨今は特にそういった様子が見られるが,逆に恣意的な場合もメディア等では見られるのは困りものである。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
20	4	4	0 COVID-19 対策では一定の効果はあったように思います。(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
21	2	2	0 見えないところであるのかもしれないが,一地方としては実感が無い。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
22	2	2	0 そうい市民と話し合う場を大学は作った方が良いと思います。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
23	3	3	0 経営協議会や外部知識人を入れた議論が結構,有効に働いている。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
24	2	2	0 対話する機会を講演会の開催程度にしているのではない。また,企業出身者をPM.POにすることにより,基礎研究の現場を荒らしている実態が顕在化してきているのではない。その実態の把握とその結果による新たな制度設計が必要になっていないか(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
25	2	2	0 いろいろな試み,イベントが随所で開催されているのは知っているが,そのフォローアップがきちんとなされずやりっぱなしになっている印象。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
26	1	1	0 双方の間で信頼関係が無く,機能不全になっている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
27	3	3	0 取り組みは十分でないが,ネットの発達で対話が行われている(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
28	5	5	0 本当の意味のコメンテーターがいて,異なる立場の論旨を整理して,理解し合える方式にしないと無意味。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
29	1	1	0 無関心,無知が横行している。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
30	1	1	0 行政官が学識経験者を活用して政治的判断をしているが,本来は行政官そのものが判断できるような知識や勉強をしなくては。(民間企業等,その他,男性)
31	2	2	0 メディアの知識レベルが退化していることもあり,多様性を言うにはレベルが低い。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
32	2	1	-1 むしろ科学技術に対する「不信感」や,「役に立たない」という意識が強くなっているのではないか?(大学,部長・教授等クラス,男性)
33	4	3	-1 コロナの影響で取り組みが十分とは言えなくなっている。(大学,部長・教授等クラス,男性)
34	3	2	-1 COVID-19に関する報道においてもみられるように,報道メディアの科学技術リテラシーの水準には改善の余地がある。(大学,部長・教授等クラス,男性)

35	3	2	-1	より多くの場で対話・協働が望まれるが、研究者/教員が忙しすぎて難しい。(大学,部長・教授等クラス,男性)
36	3	2	-1	・対話を名目に一部のステークホルダーの利害を押し付けることはあってはならない。・政策形成が独断的に行われており合理性を欠く。(大学,第1G,社長・学長等クラス,男性)
37	2	1	-1	殆どないと言ってもよいかもしれない、多くの国民は、子弟の教育と人材の供給という点で大学を捉えているのではないか。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
38	2	1	-1	学術会議などの機関を有効に利用すべき(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
39	3	2	-1	互いを理解するという意識がまだ根付いていない(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
40	3	2	-1	コロナ禍で、オンライン対応が困難な層との対話・協働の機会が激減するとともに、全てのステークホルダーとの協働が停滞傾向にある。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
41	3	2	-1	国民は不在のように思う。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
42	3	2	-1	近年は、政府主導の政策決定が横行している様に感じる。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
43	4	3	-1	十分とは言えないので、評価を下げました。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
44	3	2	-1	自己主張ばかりで、議論になっていない事が多い。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
45	3	2	-1	そうした時間を確保する余裕がない現状もある(資金,時間)。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
46	3	2	-1	まだまだ不足していると感じられる。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
47	3	2	-1	あまり「十分」で無くなっている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
48	2	1	-1	菅総理がすべてぶち壊した。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
49	4	3	-1	昨年より不十分であった。(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,女性)
50	2	1	-1	日本学術会議の会員任命における政治の説明無き介入は、「多様なステークホルダーが双方向で対話」に反する(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
51	3	2	-1	対話はされているが、それが適切な形でされているかという点について、十分とは思えないため。(民間企業等,その他,女性)

Q604. 我が国において、グローバルなニーズを先取りする研究開発や新ビジネスの創出が十分に行われていると思いますか。

回答者グループ	2020年度調査													各年の指数					指数の変化				
	分からない	6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第1四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年	
		1	2	3	4	5	6																
大学・公的研究機関グループ	1	9	48	48	16	4	0	125	3.3	2.4	3.5	4.6	3.8	3.6	3.5	3.6	3.3	-0.16	-0.10	0.09	-0.28	-0.45	
大学等	1	8	37	44	15	4	0	108	3.4	2.5	3.7	4.7	3.9	3.8	3.7	3.8	3.4	-0.12	-0.14	0.10	-0.32	-0.48	
公的研究機関	0	1	11	4	1	0	0	17	2.6	2.2	2.8	3.6	3.1	2.6	2.6	2.8	2.6	-0.42	-0.04	0.21	-0.21	-0.46	
イノベーション拠点グループ	23	96	232	156	66	14	2	566	2.9	2.0	3.0	4.4	3.4	3.2	3.2	3.1	2.9	-0.19	0.02	-0.13	-0.21	-0.51	
大企業	5	19	72	46	23	7	0	167	3.1	2.2	3.2	4.6	3.6	3.5	3.5	3.3	3.1	-0.12	-0.02	-0.14	-0.18	-0.46	
中小企業・大学発ベンチャー	6	32	46	27	14	4	1	124	2.6	1.6	2.8	4.3	3.2	2.9	3.0	2.8	2.6	-0.27	0.11	-0.22	-0.14	-0.52	
中小企業	5	12	25	13	9	3	0	62	2.9	1.9	2.9	4.6	3.4	3.3	3.2	2.9	2.9	-0.13	-0.13	-0.28	0.00	-0.54	
大学発ベンチャー	1	20	21	14	5	1	1	62	2.4	1.3	2.5	4.0	2.9	2.5	2.8	2.6	2.4	-0.39	0.29	-0.17	-0.26	-0.54	
橋渡し等	12	45	114	83	29	3	1	275	2.8	2.0	3.0	4.3	3.3	3.1	3.1	3.0	2.8	-0.21	-0.01	-0.08	-0.25	-0.54	
男性	22	99	259	195	77	17	2	649	3.0	2.1	3.1	4.4	3.4	3.3	3.3	3.2	3.0	-0.20	0.01	-0.09	-0.22	-0.50	
女性	2	6	21	9	5	1	0	42	2.8	2.0	2.9	4.2	3.2	3.3	3.1	3.0	2.8	0.06	-0.16	-0.12	-0.24	-0.46	
社長・役員、学長等クラス	4	60	131	104	33	9	1	338	2.8	2.0	3.1	4.3	3.4	3.2	3.2	3.1	2.8	-0.18	0.00	-0.09	-0.26	-0.53	
部長、教授クラス	10	37	104	71	34	6	0	252	3.0	2.1	3.1	4.5	3.6	3.3	3.3	3.1	3.0	-0.27	-0.05	-0.19	-0.14	-0.65	
主任研究員、准教授クラス	4	5	20	12	7	2	1	47	3.3	2.2	3.2	4.8	3.2	3.4	3.4	3.6	3.3	0.22	-0.07	0.23	-0.28	0.10	
研究員、助教クラス	1	0	6	3	3	0	0	12	3.5	2.5	3.3	5.0	4.3	3.1	4.0	3.4	3.5	-1.17	0.89	-0.60	0.10	-0.79	
その他	5	3	19	14	5	1	0	42	3.1	2.3	3.2	4.5	3.2	3.1	3.3	3.5	3.1	-0.11	0.25	0.19	-0.36	-0.03	
任期あり	6	41	125	104	36	10	0	316	3.0	2.2	3.2	4.5	3.6	3.3	3.5	3.2	3.0	-0.25	0.16	-0.24	-0.19	-0.52	
任期なし	18	64	155	100	46	8	2	375	2.9	2.0	3.0	4.4	3.3	3.2	3.1	3.1	2.9	-0.14	-0.12	0.02	-0.25	-0.48	
学長・機関長等	1	9	48	48	16	4	0	125	3.3	2.4	3.5	4.6	3.8	3.6	3.5	3.6	3.3	-0.16	-0.10	0.09	-0.28	-0.45	
マネジメント実務	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
現場研究者	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大規模PIの研究責任者	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
国立大学等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
公立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
私立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
第1グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
第2グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
第3グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
第4グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
理学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
工学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
農学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
保健	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
あり(過去3年間)	14	71	179	114	54	12	1	431	2.9	2.0	3.0	4.4	3.4	3.2	3.3	3.1	2.9	-0.20	0.06	-0.13	-0.25	-0.53	
なし	9	25	53	42	12	2	1	135	2.8	1.9	3.0	4.3	3.1	3.0	2.8	2.7	2.8	-0.13	-0.21	-0.06	0.01	-0.39	
あり(過去3年間)	5	27	73	53	21	9	1	184	3.1	2.1	3.2	4.5	3.3	3.3	3.3	3.3	3.1	-0.08	-0.01	0.03	-0.20	-0.26	
なし(分からない)	12	39	92	53	23	4	1	212	2.7	1.9	2.9	4.2	3.3	2.9	3.1	2.8	2.7	-0.34	0.12	-0.31	-0.04	-0.58	
全回答者(属性無回答を含む)	24	105	280	204	82	18	2	691	2.9	2.1	3.1	4.4	3.4	3.3	3.3	3.2	2.9	-0.18	0.00	-0.09	-0.22	-0.50	

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)～6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)～10.0ポイント(十分)となる。

Q604. (意見の変更理由)我が国において、グローバルなニーズを先取りする研究開発や新ビジネスの創出が十分に行われていると思いますか。

	2019	2020	差	
1	1	2	1	個別にはそれなりにされていると考える。より促進の必要がある。SDGsを活用した研究開発、ビジネス創出が進んでいない。(大学,部長・教授等クラス,男性)
2	2	3	1	様々な問題が顕在化した結果、逆に意識は高まりつつあると思われる。(大学,部長・教授等クラス,男性)
3	2	3	1	地域経済活性化支援機構と協力して地域振興を含めたイノベーション開発をトライしている。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
4	1	2	1	近年SDGsやESGが浸透し、グローバルニーズに対応する研究開発や新ビジネスが増えているとの印象。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
5	1	2	1	遅れてきていると感じます。(民間企業等,社長・学長等クラス,女性)
6	4	5	1	ITの進歩でグローバルな課題は見えやすくなっている。他国も同様のため、相対的に優位かは疑問。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
7	1	2	1	機関の要請よりは個人の力量は高いと思う。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
8	2	3	1	競争資金が増加するに伴って、出口指向が少し進んだ感があります。(民間企業等,その他,男性)
9	2	2	0	最近のトレンドはSDGsであるが、これらに対応する新ビジネスの創生について、まだまだ議論が不足している。(大学,部長・教授等クラス,男性)
10	2	2	0	国の戦略目標自体が後追いが多く、先取る意識を、国自体が本当は持っていないのではないかと感じる。(大学,部長・教授等クラス,男性)
11	2	2	0	グローバルニーズの先取りは、個々の努力に掛かっている。十分ではない。(大学,その他,男性)
12	2	2	0	分野にもよるが、グローバルな問題に対する研究よりも、地益に直結する研究が重視される傾向にある。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
13	2	2	0	脱炭素についてすら明確な方針が打ち出せない国家で気骨のあるビジネスが生まれるとは思えない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
14	1	1	0	おこなわれていることが、古い。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
15	2	2	0	広い意味での「ビジネス」(自律的に拡大する形)にする意識がまだ薄い。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
16	4	4	0	現在のグローバルニーズは、このコロナ禍で更に様変わりしてきてはいないのか？ワクチン,防護類,携帯UV消毒,抗菌塗料,リモート・ワークのためのアイテム,それに関わる部材など。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
17	4	3	-1	欧米中と比較して、相対的に十分でなくなっているように感じる。(大学,社長・学長等クラス,男性)
18	3	2	-1	新型コロナへの対応が遅い(大学,部長・教授等クラス,男性)
19	3	2	-1	停滞していると思う。(大学,その他,男性)
20	3	2	-1	世界に劣後している分野が少なくない。(大学,第1G,社長・学長等クラス,男性)
21	3	2	-1	コロナ禍における人・物の移動停滞で顕在化した、従来のグローバル経済の危険性に対し、対応が遅れている。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
22	3	2	-1	安全保障に関する取り組みが貧弱だと思います。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
23	4	3	-1	グローバルより内向きな取り組みになる場合が多くなってきている。短視的なのかもしれません。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
24	2	1	-1	サブティカルを取得される先生方が少ないのが気がかりだ。是非,送り出していきたい。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
25	2	1	-1	日本の研究活動が新ビジネスの創出を目指しているとは考えにくい。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
26	4	3	-1	グローバル化への対応に少し危機感をいんでいる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
27	2	1	-1	産業側において、リスクテイクを忌避する傾向が多く企業においてより高まりつつあり、足元へのみ目を向ける傾向が高まっていると感じる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
28	4	3	-1	科学技術外交という言葉が該当するような努力は、最近余り聞かなくなった。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
29	3	2	-1	研究はされていても新ビジネスにつながらない、つながり切れていないものが多い。(民間企業等,その他,女性)
30	4	2	-2	研究費の審査をする機会があり、申請内容が旧態依然なので驚いた。(大学,その他,男性)
31	4	2	-2	新ビジネスの創出は欧米・中国に比べ弱いとの印象。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
32	4	2	-2	研究開発はやっているが、ビジネスが創出されているかは疑問。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)

Q605. 我が国が強みを持つ技術やシステムの海外展開に際して、官民が一体となった取組が十分に行われていると思いますか。

回答者グループ	2020年度調査											各年の指数					指数の変化					
	分らない	6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第1四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年
		1	2	3	4	5	6															
大学・公的研究機関グループ	5	12	43	42	20	4	0	121	3.4	2.4	3.6	4.8	3.7	3.8	3.6	3.4	0.05	-0.16	0.01	-0.27	-0.37	
大学等	4	9	34	39	19	4	0	105	3.5	2.5	3.7	4.9	4.0	4.0	3.8	3.5	0.02	-0.19	0.05	-0.31	-0.43	
公的研究機関	1	3	9	3	1	0	0	16	2.3	1.9	2.6	3.3	2.4	2.7	2.5	2.3	0.29	-0.24	0.03	-0.28	-0.19	
イノベーション拠拠グループ	43	76	219	163	68	17	3	546	3.0	2.1	3.2	4.5	3.5	3.3	3.3	3.0	-0.18	0.00	-0.14	-0.09	-0.42	
大企業	14	13	65	51	23	5	1	158	3.3	2.3	3.4	4.7	3.6	3.5	3.4	3.3	-0.14	-0.08	0.00	-0.08	-0.30	
中小企業・大学発ベンチャー	9	29	48	29	10	4	1	121	2.6	1.7	2.8	4.1	3.2	3.0	3.0	2.7	-0.22	0.02	-0.33	-0.08	-0.60	
中小企業	5	15	22	15	7	3	0	62	2.7	1.7	2.9	4.4	3.4	3.3	3.1	2.8	-0.11	-0.13	-0.34	-0.06	-0.64	
大学発ベンチャー	4	14	26	14	3	1	1	59	2.4	1.7	2.7	3.8	3.0	2.7	2.9	2.4	-0.30	0.14	-0.34	-0.09	-0.59	
橋渡し等	20	34	106	83	35	8	1	267	3.1	2.2	3.2	4.5	3.5	3.3	3.3	3.1	-0.20	0.04	-0.15	-0.10	-0.41	
男性	44	83	242	195	84	20	3	627	3.1	2.2	3.3	4.6	3.6	3.4	3.4	3.2	-0.18	-0.03	-0.11	-0.12	-0.43	
女性	4	5	20	10	4	1	0	40	2.8	2.1	2.9	4.2	2.6	3.1	3.2	3.0	0.53	0.04	-0.18	-0.20	0.19	
社長・役員・学長等クラス	15	51	122	111	35	7	1	327	2.9	2.1	3.2	4.4	3.4	3.3	3.2	3.1	-0.03	-0.11	-0.13	-0.17	-0.44	
部長・教授クラス	20	26	95	71	38	11	1	242	3.3	2.3	3.3	4.8	3.7	3.4	3.5	3.3	-0.27	0.11	-0.16	-0.03	-0.35	
主任研究員・准教授クラス	8	5	18	9	9	1	1	43	3.3	2.2	3.2	5.0	3.6	3.5	3.1	3.5	-0.13	-0.35	0.34	-0.12	-0.27	
研究員・助教クラス	1	1	5	4	1	1	0	12	3.3	2.3	3.3	4.6	4.6	3.8	4.7	3.6	-0.82	0.98	-1.13	-0.27	-1.24	
その他	4	5	22	10	5	1	0	43	2.8	2.1	2.9	4.2	3.4	3.1	3.0	2.8	-0.27	-0.10	0.09	-0.28	-0.56	
任期あり	11	36	129	100	39	7	0	311	3.0	2.2	3.2	4.5	3.6	3.3	3.4	3.0	-0.26	0.11	-0.28	-0.10	-0.52	
任期なし	37	52	133	105	49	14	3	356	3.2	2.1	3.2	4.6	3.5	3.4	3.3	3.2	-0.05	-0.13	0.03	-0.15	-0.31	
学長・機関長等	5	12	43	42	20	4	0	121	3.4	2.4	3.6	4.8	3.7	3.8	3.6	3.4	0.05	-0.16	0.01	-0.27	-0.37	
マネジメント実務	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
現場研究者	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大規模PIの研究責任者	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
国立大学等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
公立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
私立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
第1グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
第2グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
第3グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
第4グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
理学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
工学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
農学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
保健	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
あり(過去3年間)	24	56	178	121	52	12	2	421	3.0	2.1	3.1	4.5	3.5	3.3	3.3	3.0	-0.14	0.02	-0.15	-0.17	-0.44	
なし	19	20	41	42	16	5	1	125	3.2	2.1	3.4	4.6	3.5	3.1	3.0	3.2	-0.41	-0.11	-0.06	0.22	-0.37	
あり(過去3年間)	12	22	69	56	22	6	2	177	3.2	2.2	3.3	4.6	3.3	3.3	3.3	3.2	-0.03	-0.03	-0.10	0.01	-0.15	
なし(分からない)	20	33	81	59	24	6	1	204	2.9	2.0	3.1	4.4	3.5	3.1	3.1	3.0	-0.36	-0.01	-0.15	-0.03	-0.55	
全回答者(属性無回答を含む)	48	88	262	205	88	21	3	667	3.1	2.2	3.2	4.6	3.5	3.4	3.3	3.2	3.1	-0.14	-0.02	-0.11	-0.13	-0.41

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価値(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q605. (意見の変更理由)我が国が強みを持つ技術やシステムの海外展開に際して、官民が一体となった取組が十分に行われていると思いますか。

	2019	2020	差	
1	2	3	1	霞ヶ関を動かすのは相当大変だが、成功例もでている。(大学,部長・教授等クラス,男性)
2	2	3	1	地域経済活性化支援機構の取り組みに期待したい。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
3	3	4	1	医療分野に限ってみれば、官民一体となった取り組みが顕在化してきた感があり、上方修正した。(公的研究機関,その他,男性)
4	3	4	1	官民が一体となって取り組みは、増えてきていると思います。(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
5	2	2	0	そもそもシステム技術としての研究が日本では進んでいない。単純な技術を海外に展開することはありえない。(大学,部長・教授等クラス,男性)
6	2	2	0	十分とは言えない。(大学,その他,男性)
7	1	1	0	外からは全く見えません。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
8	3	3	0	さらにもっと進めるべき。(民間企業等,社長・学長等クラス,女性)
9	1	1	0	環境やUDなど、世界での常識を全く政府が理解していないため、日本での研究は無駄でしかない。(民間企業等,社長・学長等クラス,女性)
10	3	3	0	完成技術の移転だけでは無い、技術フェーズに応じた展開の仕組みを望みたい。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
11	5	5	0	変更は無いが、弊社と協業メーカーが開発導入した製造システムは、それまで海外に依存していた従来手法に対して、国内での効率を数十倍にあげることができた。このように、あえて海外展開せずに、国内にて著しい効果をあげる機会もある。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
12	4	3	-1	欧米中と比較して、相対的に十分でなくなっているように感じる。(大学,社長・学長等クラス,男性)
13	5	4	-1	ここ数年の社会の大きな変革に対し、強みの分析が不十分になってきている。(大学,部長・教授等クラス,男性)
14	3	2	-1	わが国の予算での海外展開は減速している。むしろ民間がそのイメージを維持するために行っていると言える。中国の独壇場。(大学,部長・教授等クラス,男性)
15	3	2	-1	コロナの影響で取り組みが十分とは言えなくなっている。(大学,部長・教授等クラス,男性)
16	3	2	-1	我が国の強みのひとつであるものづくりに関し、我が国独自の次世代ものづくり戦略が非常に弱い(大学,その他,男性)
17	3	2	-1	・注力した取組の失敗例について、検証が必要。・我が国が強みを持つ技術やシステムがどれほどあるのか疑問である。(大学,第1G,社長・学長等クラス,男性)
18	2	1	-1	官民が同一の方向性を持つことが困難と考える。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
19	4	3	-1	情報分野での遅れを感じる(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
20	4	3	-1	戦略的に海外をうまく巻き込むことが必要。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
21	2	1	-1	長期的なバックアップをもった護送船団方式が無いと現在のグローバル競争で戦えるとは思えない(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
22	3	2	-1	コロナの影響で困難になった面もあると思われる(民間企業等,その他,男性)
23	3	2	-1	〇〇【民間企業】の原発撤退に現れているように、日本企業は世界のニーズに応えた技術開発を怠っている。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
24	5	3	-2	新幹線の海外受注など事例は出ているが、中国他国と比べると取り組みは不十分に感じられるため。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
25	4	2	-2	我が国の強みが他国に吸われている。(民間企業等,その他,男性)

Q606. インクルーシブ・イノベーション(新興国や途上国も包摂した形の持続可能なイノベーション)実現のために、我が国において新興国や途上国との人的ネットワークを強化する取組は十分に行われていると思いますか。

回答者グループ	2020年度調査													各年の指数					指数の変化				
	分らない	6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第1四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年	
		1	2	3	4	5	6																
大学・公的研究機関グループ	4	8	49	39	19	7	0	122	3.5	2.4	3.5	4.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.5	-0.11	-0.04	0.08	-0.26	-0.33	
大学等	3	6	39	38	17	6	0	106	3.6	2.5	3.7	4.8	4.0	3.9	3.8	3.9	3.6	-0.06	-0.11	0.09	-0.30	-0.37	
公的研究機関	1	2	10	1	2	1	0	16	2.8	2.0	2.7	3.3	3.0	2.6	2.8	2.9	2.8	-0.37	0.12	0.20	-0.20	-0.25	
イノベーション推進グループ	103	67	201	148	51	14	5	486	3.0	2.1	3.1	4.4	3.3	3.3	3.2	3.1	3.0	-0.07	-0.09	-0.07	-0.09	-0.32	
大企業	30	9	61	47	17	7	1	142	3.4	2.4	3.4	4.6	3.6	3.5	3.3	3.3	3.4	-0.11	-0.19	0.07	0.02	-0.20	
中小企業・大学発ベンチャー	33	18	40	24	11	2	2	97	2.9	1.9	2.9	4.4	3.1	3.0	3.2	3.1	2.9	-0.10	0.15	-0.04	-0.28	-0.27	
中小企業	22	7	18	12	5	2	1	45	3.1	2.1	3.1	4.5	3.4	3.3	3.4	3.2	3.1	-0.06	0.03	-0.19	-0.06	-0.29	
大学発ベンチャー	11	11	22	12	6	0	1	52	2.7	1.8	2.8	4.2	2.9	2.8	3.0	3.1	2.7	-0.13	0.23	0.11	-0.47	-0.27	
橋渡し等	40	40	100	77	23	5	2	247	2.9	2.0	3.1	4.3	3.3	3.2	3.1	2.9	2.9	-0.03	-0.14	-0.16	-0.08	-0.40	
男性	99	70	234	177	65	21	5	572	3.1	2.2	3.2	4.5	3.5	3.4	3.3	3.2	3.1	-0.10	-0.09	-0.03	-0.13	-0.34	
女性	8	5	16	10	5	0	0	36	2.8	2.1	3.0	4.3	2.6	3.1	3.1	2.9	2.8	0.51	0.01	-0.20	-0.06	0.26	
社長・役員、学長等クラス	39	35	132	88	35	10	3	303	3.1	2.2	3.1	4.5	3.3	3.2	3.2	3.1	3.1	-0.09	0.00	-0.04	-0.11	-0.23	
部長、教授クラス	42	31	86	71	21	10	1	220	3.1	2.1	3.2	4.5	3.5	3.4	3.3	3.2	3.1	-0.10	-0.12	-0.14	-0.12	-0.47	
主任研究員、准教授クラス	13	4	14	10	8	1	1	38	3.5	2.3	3.5	5.1	3.2	3.6	3.3	3.5	3.5	0.45	-0.36	0.23	0.01	0.33	
研究員、助教クラス	5	0	2	3	3	0	0	8	4.3	3.3	4.4	5.6	5.0	3.3	3.8	4.3	4.3	-1.67	0.47	-0.02	0.47	-0.75	
その他	8	5	16	15	3	0	0	39	2.8	2.2	3.2	4.3	3.6	3.4	3.0	3.3	2.8	-0.20	-0.42	0.37	-0.51	-0.77	
任期あり	30	29	126	94	33	9	1	292	3.1	2.2	3.2	4.5	3.5	3.3	3.4	3.2	3.1	-0.21	0.04	-0.14	-0.12	-0.44	
任期なし	77	46	124	93	37	12	4	316	3.1	2.1	3.2	4.5	3.3	3.3	3.2	3.2	3.1	0.04	-0.18	0.05	-0.12	-0.21	
学長・機関長等	4	8	49	39	19	7	0	122	3.5	2.4	3.5	4.8	3.8	3.7	3.7	3.5	3.5	-0.11	-0.04	0.08	-0.26	-0.33	
マネジメント実務	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
現場研究者	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大規模PIの研究責任者	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
国立大学等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
公立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
私立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
第1グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
第2グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
第3グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
第4グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
理学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
工学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
農学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
保健	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
産学官連携活動あり(過去3年間)	71	54	157	110	37	12	4	374	3.0	2.1	3.1	4.4	3.3	3.3	3.2	3.1	3.0	0.03	-0.10	-0.07	-0.17	-0.31	
なし	32	13	44	38	14	2	1	112	3.1	2.2	3.3	4.5	3.6	3.0	2.9	2.9	3.1	-0.55	-0.08	-0.03	0.24	-0.43	
大学・公的研究機関の知財活用(企業等)	33	12	74	43	13	11	3	156	3.3	2.3	3.2	4.5	3.3	3.4	3.2	3.3	3.3	0.07	-0.17	0.13	-0.03	0.01	
なし(分らない)	51	26	65	59	21	1	1	173	2.9	2.1	3.2	4.4	3.4	3.1	3.3	2.9	2.9	-0.28	0.17	-0.34	0.01	-0.45	
全回答者(属性無回答を含む)	107	75	250	187	70	21	5	608	3.1	2.2	3.2	4.5	3.4	3.3	3.3	3.2	3.1	-0.07	-0.08	-0.04	-0.12	-0.31	

注1: 回答者数は、分らないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)～6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)～10.0ポイント(十分)となる。

Q606. (意見の変更理由)インクルーシブ・イノベーション(新興国や途上国も包摂した形の持続可能なイノベーション)実現のために、我が国において新興国や途上国との人的ネットワークを強化する取組は十分に行われていると思いますか。

	2019	2020	差	
1	4	6	2	必要以上に行われており、どちらかと言えば日本国内の人材育成に力を入れるべきフェーズである。(大学,部長・教授等クラス,男性)
2	1	3	2	一部にはタイやインドネシアと連携されている先生が増えてきた。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
3	2	4	2	イノベーションが求められているかどうかは疑問であるが,新興国や途上国の人材育成には貢献していると思う。(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
4	3	4	1	新興国や途上国に対して差別的な考え方が国全体として強いという印象がある。(大学,第1G,社長・学長等クラス,男性)
5	4	5	1	資源学の分野において新興国,途上国の資源人材育成等に貢献している。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
6	2	3	1	海外留学生の積極的な取り込みを行っている。将来への投資みたいなものか(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
7	2	3	1	大学では十分行われているとは言えないが,むしろ企業は積極的ではないかと思う。これは学会等が欧米を中心とした先進国で行われることが多いが,企業は途上国などにマーケットを求めていることに由来すると思われる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
8	4	5	1	強化されていると思います。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
9	3	4	1	近年は,途上国の留学生も増え,またその留学生を,民間企業が採用する機会が増えている。ネットワーク強化が進んでいる証と感じる。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
10	1	2	1	新興国での製造業は,メインのメーカーの動き次第で,それに関わる各社の動きが決まる構造のため,コロナ禍においては,非常に脆弱な仕組みである。この時的ネットワークの役割としての新たな課題が浮き彫りにされた。今の時代は,片方が片方に貢献していく(協力・提供・教育)という形ではなく,相互で,どう難局を乗り切るか? 予防策を練っていくのか?を遂行していくことにある。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
11	1	1	0	新興国,途上国との連携がないと実現できない課題である。(大学,その他,男性)
12	3	3	0	国立大学がその任を担うべきだと理解しているが,日本の国立大学にはその余裕がないというのも現実である。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
13	3	3	0	人的リソースで先進国・新興国を分けて質問する事自体に違和感を感じる(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
14	3	3	0	「ソフトパワー」として,継続的かつ忍耐強い取り組み(投資)が必要。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
15	2	2	0	裕福な考え方がなせる話で,国内にもっと目を向ける必要がある。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
16	4	3	-1	インクルーシブ・イノベーションについてやや,盛り上がり欠けるように思う。(大学,社長・学長等クラス,男性)
17	3	2	-1	国際連携が難しい今がチャンスなのだが。(大学,社長・学長等クラス,男性)
18	2	1	-1	安全保障貿易管理の強化により,ネットワーク構築には制限が加わっている(大学,部長・教授等クラス,男性)
19	3	2	-1	JICAで若手専門家をもっと派遣すべき。(大学,部長・教授等クラス,男性)
20	2	1	-1	コロナの影響で取り組みが十分とは言えなくなっている。(大学,部長・教授等クラス,男性)
21	3	2	-1	移動が制限される中で新興国や途上国との人的ネットワークを強化する取組は難しくなっている。(大学,部長・教授等クラス,男性)
22	3	2	-1	コロナ禍で,新興国や途上国との接点・交流が激減している。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
23	3	2	-1	途上国のステークホルダーとして,相手国の地域住民など経済的な力を持たない人たちとの研究が十分ではない。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
24	3	2	-1	特に最近イノベーションへの取り組みが低下している。内向きの国内での評価ばかりに重きが置かれていることが問題だと考えている。(公的研究機関,社長・学長等クラス,女性)
25	4	3	-1	大学教員がネットワークを作れば予算がとれると誤解。基礎研究能力が低下している。(民間企業等,その他,男性)
26	3	2	-1	コロナの影響で困難になった面もあると思われる(民間企業等,その他,男性)
27	3	2	-1	対応できる人材が減ってきてはいないか?(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
28	3	2	-1	中国の暴風雨的な進出に押されまくっている。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
29	3	1	-2	有望な若い海外研究者を受け入れているとは思えない。本庶研究室の主力メンバーは90%東南アジア系の学生であることを学んではどうか?(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
30	4	1	-3	まず我が国があつての新興国や途上国との人的ネットワークと考える。我が国の研究員に十分な資金を充て,人材を確保し,大学も明確に実用化を意識し,しっかり国益に供給できる体制を敷いて欲しい(民間企業等,その他,男性)

Q607. 我が国の政府に対する科学的助言の仕組みや体制は十分に機能していると思いますか。

回答者グループ	2020年度調査													各年の指数					指数の変化				
	分らない	6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第4四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年	
		1	2	3	4	5	6																
大学・公的研究機関グループ	2	21	46	39	16	2	0	124	2.9	2.0	3.2	4.4	3.7	3.4	3.2	3.2	2.9	-0.27	-0.20	-0.03	-0.31	-0.81	
大学等	2	16	38	37	14	2	0	107	3.0	2.1	3.3	4.5	3.8	3.6	3.4	3.4	3.0	-0.16	-0.18	-0.02	-0.37	-0.73	
公的研究機関	0	5	8	2	2	0	0	17	2.1	1.4	2.4	3.3	3.5	2.6	2.1	2.3	2.1	-0.84	-0.51	0.18	-0.18	-1.36	
インベーション/雇職グループ	90	95	170	151	73	9	1	499	2.9	2.0	3.2	4.5	3.5	3.4	3.2	3.1	2.9	-0.05	-0.20	-0.11	-0.19	-0.56	
大企業	28	13	43	60	22	6	0	144	3.5	2.6	3.8	4.8	3.6	3.8	3.5	3.6	3.5	0.14	-0.27	0.12	-0.11	-0.12	
中小企業・大学発ベンチャー	29	27	31	31	11	0	1	101	2.6	1.6	2.9	4.3	3.1	3.2	3.1	2.8	2.6	0.16	-0.08	-0.32	-0.18	-0.73	
中小企業	16	10	20	14	7	0	0	51	2.7	1.9	3.0	4.3	3.1	3.0	3.1	2.7	2.7	-0.09	0.11	-0.40	-0.04	-0.42	
大学発ベンチャー	13	17	11	17	4	0	1	50	2.5	1.2	2.9	4.3	3.5	3.3	3.0	2.8	2.5	-0.22	-0.24	-0.23	-0.33	-1.02	
橋渡し等	33	55	96	60	40	3	0	254	2.7	1.8	2.9	4.4	3.5	3.3	3.1	3.0	2.7	-0.15	-0.20	-0.15	-0.24	-0.74	
男性	83	110	201	180	86	10	1	588	2.9	2.0	3.2	4.5	3.5	3.4	3.2	3.2	2.9	-0.12	-0.19	-0.08	-0.22	-0.59	
女性	9	6	15	10	3	1	0	35	2.7	2.0	2.9	4.2	3.5	3.8	3.4	3.0	2.7	0.28	-0.41	-0.17	-0.45	-0.23	
社長・役員、学長等クラス	41	56	104	97	38	5	1	301	2.9	2.0	3.2	4.5	3.6	3.4	3.3	3.1	2.9	-0.18	-0.17	-0.12	-0.20	-0.72	
部長、教授クラス	31	46	85	64	30	6	0	231	2.8	1.9	3.0	4.4	3.4	3.3	3.1	3.0	2.8	-0.12	-0.14	-0.12	-0.19	-0.57	
主任研究員、准教授クラス	11	4	11	12	13	0	0	40	3.7	2.6	4.0	5.4	3.4	4.0	3.5	3.8	3.7	0.64	-0.59	0.33	-0.09	0.29	
研究員、助教クラス	2	1	3	5	2	0	0	11	3.5	2.6	3.8	4.8	4.0	4.3	3.6	3.2	3.5	0.29	-0.65	-0.44	0.25	-0.55	
その他	7	9	13	12	6	0	0	40	2.8	1.8	3.1	4.4	3.6	3.7	3.2	3.5	2.8	0.11	-0.47	0.29	-0.76	-0.83	
任期あり	31	50	105	87	44	5	0	291	3.0	2.0	3.2	4.5	3.7	3.5	3.3	3.2	3.0	-0.15	-0.21	-0.10	-0.24	-0.70	
任期なし	61	66	111	103	45	6	1	332	2.9	1.9	3.2	4.5	3.4	3.4	3.2	3.1	2.9	-0.05	-0.19	-0.09	-0.20	-0.53	
学長・機関長等	2	21	46	39	16	2	0	124	2.9	2.0	3.2	4.4	3.7	3.4	3.2	3.2	2.9	-0.27	-0.20	-0.03	-0.31	-0.81	
マネジメント実務	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
現場研究者	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大規模PIの研究責任者	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
国立大学等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
公立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
私立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
第1グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
第2グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
第3グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
第4グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
理学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
工学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
農学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
保健	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
あり(過去3年間)	59	71	140	115	54	5	1	386	2.9	2.0	3.1	4.5	3.6	3.5	3.3	3.3	2.9	-0.01	-0.22	-0.08	-0.37	-0.67	
なし	31	24	30	36	19	4	0	113	3.1	1.9	3.4	4.8	3.2	2.9	2.8	2.6	3.1	-0.24	-0.13	-0.24	0.55	-0.06	
あり(過去3年間)	32	19	52	59	22	5	0	157	3.3	2.3	3.5	4.7	3.6	3.6	3.4	3.5	3.3	0.02	-0.20	0.01	-0.19	-0.37	
なし(分からない)	46	37	57	53	28	2	1	178	2.9	1.9	3.2	4.6	3.3	3.2	3.1	2.9	2.9	-0.04	-0.11	-0.17	-0.02	-0.33	
全回答者(属性無回答を含む)	92	116	216	190	89	11	1	623	2.9	2.0	3.2	4.5	3.5	3.4	3.2	3.1	2.9	-0.09	-0.20	-0.10	-0.22	-0.61	

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価値(1(不十分)～6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)～10.0ポイント(十分)となる。

Q607. (意見の変更理由)我が国の政府に対する科学的助言の仕組みや体制は十分に機能していると思いますか。

	2019	2020	差	
1	2	4	2	新型コロナウイルス感染症問題では専門家の科学的助言が機能するしくみができたと観られる。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
2	2	4	2	コロナでの有識者委員会は, その成果の良否は今後の評価待ちだが, 政策に影響を与えたと思う。(民間企業等, 主任研究員・准教授クラス, 男性)
3	1	2	1	自然災害関連情報については, 首都圏以外のことについても, ONTIMEで配信されるようになった。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
4	3	4	1	学会や大学からの科学的助言は, よくされていると思います。しかし, ビジネス面も含める場合は, 企業からの助言を聞くことも大事。(民間企業等, 主任研究員・准教授クラス, 男性)
5	1	1	0	科学技術イノベーション会議の委員構成が偏っている。また, 学術会議の提言が十分に生かされていない。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
6	1	1	0	偏った意見に流される, あるいはそれを重用する動きは, さらにひどくなっていると感じられる。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
7	1	1	0	政府の対応がよくないために, この項目はなかなか難しい。(大学, その他, 男性)
8	2	2	0	・日本学術会議の任命をめぐる事件があったが, これまではそれなりにうまく機能してきたと思う。・政府側に科学的助言に耳を傾ける姿勢が不可欠。(大学, 第1G, 社長・学長等クラス, 男性)
9	1	1	0	基礎的な研究に対するサポートについての理解が低い。(公的研究機関, 社長・学長等クラス, 男性)
10	1	1	0	学術会議あり方, とくに構成する人材については改革が必要だと考えます。(公的研究機関, 社長・学長等クラス, 男性)
11	3	3	0	コロナ禍で弱点が顕わになった。(公的研究機関, その他, 男性)
12	1	1	0	水素自動車の水素を製造するのにCO2が発生するのに, なぜエコなのかの説明がされていない。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
13	6	6	0	政府の太鼓持ち的研究者の声だけが政府の届くという意味で。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
14	3	3	0	機能しているように見えるが, どうして実効的でないのかはわからない。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
15	1	1	0	今話題になっている日本学術会議をはじめ, まっとうな科学的助言など聞いたことがない。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
16	3	3	0	機能していますが, 弱いと感じます。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 女性)
17	1	1	0	学術会議の件で, 政府側が一切聞いていないのだということが明らかになった。政府が悪い。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 女性)
18	3	3	0	取り組みは増えているが, まだまだ道半ばと思われます。(民間企業等, その他, 男性)
19	3	3	0	大学OBなどリタイア人材を活用したら。(民間企業等, その他, 男性)
20	1	1	0	政府関係者の勉強不足で意味がない。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
21	2	2	0	最近の政権は専門家の助言に耳を貸さず, 取り巻きの声を聞いているように思う。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
22	1	1	0	日本学術会議から政府に批判的な学者を廃しようとする動きは, 科学的助言を形骸化するもの(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
23	1	1	0	学術会議問題は一体何なのか! なぜ学術会議のメンバーに選ばれないのが学問の自由を阻害するのか理解不能である。このような閉鎖的, 欺瞞的組織は即刻廃止すべきである。(民間企業等, その他, 男性)
24	3	2	-1	自然災害, サイバー攻撃など問題が起こると短期的には注目されるが, 持続性に難あり(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
25	2	1	-1	助言・提言はあっても, 具体的な政策への反映・落とし込みがなされていないのではなか? 一部の研究大学での実施はあっても, それが広範には展開されていない。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
26	2	1	-1	学術会議に圧力をかけている時点で, 政府の科学的助言を受ける意思を感じない。政府に対して耳の痛い助言も受け入れる機運が大幅に減衰しているので, 今後加速的に悪化するだろう。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
27	2	1	-1	日本学術会議に対する政府の対応状況(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
28	2	1	-1	covid19の状況を見ると, アカデミアからの助言体制も, 政府において科学的助言を活用する体制も確立していないことが, 海外比較からも明確になった。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
29	3	2	-1	政治家に科学技術を理解する専門人材が少ない。またそれをサポートする体制も脆弱(大学, その他, 男性)
30	3	2	-1	政策の傍証のために意見を求められることが多くなり, 科学的知見に基づいて政策を立案する機会が減ってきている。(大学, その他, 男性)
31	4	3	-1	提言等がどのように機能しているかが見えにくい。(大学, 第4G, 社長・学長等クラス, 男性)
32	5	4	-1	新型コロナウイルス対策に関する政策は必ずしも十分に機能しているとはいえない(大学, 第4G, 社長・学長等クラス, 男性)
33	2	1	-1	新型コロナウイルス感染症対策や, 日本学術会議への政治介入がかなり心配である。(大学, 第4G, 社長・学長等クラス, 男性)
34	3	2	-1	ボトムアップとは名ばかりのガス抜きの日本学術会議に対して不満あり(大学, 大学共同利用機関, 社長・学長等クラス, 男性)
35	2	1	-1	政府との対話が十分ではないように思われる。(大学, 大学共同利用機関, 社長・学長等クラス, 男性)
36	2	1	-1	日本学術会議の独立性問題(大学, 大学共同利用機関, 社長・学長等クラス, 男性)
37	3	2	-1	まだまだ不足していると感じられる。(公的研究機関, 社長・学長等クラス, 男性)

38	4	3	-1	コロナ等の状況を見ると、もっと科学的な思考を大切にすべきだと思います。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
39	2	1	-1	残念ながら、「成る程」と感ずる活動情報は、見受けられない。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
40	4	3	-1	予測できてない自然災害が増えつつある(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
41	2	1	-1	学会は別として、審議会、学術会議、が十分に機能しているとはあまり思えない(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
42	3	2	-1	過去の感染症の経験が活かされていなかったことが、COVIDの件で判明した(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
43	2	1	-1	学術会議の委員任命の混乱を考えると、機能に疑問符がつく(民間企業等, 部長・教授等クラス, 女性)
44	4	3	-1	新型コロナ対応で、専門家と政府や自治体の役割分担が曖昧に感じた。(民間企業等, 主任研究員・准教授クラス, 男性)
45	4	3	-1	科学的助言が政策に十分に反映されていないと感じるときがある(民間企業等, 主任研究員・准教授クラス, 男性)
46	3	2	-1	経済優先にみえる。長期的な視点が軽視されているように感じる。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
47	3	2	-1	助言はされていてもそれが適切かどうか、また、適切なものが適切に機能しているかについては、問題があると感じる。(民間企業等, その他, 女性)
48	4	2	-2	日本学術会議の扱いを見ると、政府の側に助言を受け入れようという意識が感じられない。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
49	4	2	-2	今回のコロナ禍により、科学的助言の仕組みや体制において欠けている部分が一部明らかになったと思われる。(大学, 第3G, 社長・学長等クラス, 男性)
50	4	2	-2	他の事をやっている(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)

Q608. 基本計画の推進のため、必要な資源の確保や適切な資金配分等を行うための取組を、総合科学技術・イノベーション会議は十分に行っていると思いますか。

回答者グループ	2020年度調査													各年の指数					指数の変化				
	分らない	6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第1四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年	
		1	2	3	4	5	6																
大学・公的研究機関グループ	6	14	52	29	24	1	0	120	3.1	2.2	3.1	4.7	3.8	3.6	3.5	3.4	3.1	-0.13	-0.15	-0.14	-0.25	-0.67	
大学等	6	9	43	28	22	1	0	103	3.3	2.3	3.3	4.8	3.9	3.9	3.7	3.6	3.3	0.00	-0.21	-0.11	-0.29	-0.61	
公的研究機関	0	5	9	1	2	0	0	17	2.0	1.4	2.3	3.1	3.1	2.3	2.1	2.2	2.0	-0.74	-0.18	0.08	-0.21	-1.06	
イノベーション俯瞰グループ	145	69	130	155	73	15	2	444	3.3	2.2	3.6	4.8	3.8	3.6	3.5	3.3	3.3	-0.21	-0.13	-0.14	-0.04	-0.52	
大企業	49	10	33	50	21	8	1	123	3.8	2.7	4.0	5.0	4.1	4.0	3.8	3.8	3.8	-0.12	-0.16	-0.01	-0.05	-0.33	
中小企業・大学発ベンチャー	49	20	22	28	9	1	1	81	2.8	1.7	3.2	4.4	3.3	3.1	3.1	2.9	2.8	-0.28	0.09	-0.27	-0.06	-0.53	
中小企業	30	8	9	14	5	1	0	37	3.0	1.9	3.5	4.6	3.3	3.3	3.5	3.1	3.0	0.03	0.17	-0.43	-0.03	-0.26	
大学発ベンチャー	19	12	13	14	4	0	1	44	2.6	1.5	2.9	4.3	3.4	2.9	2.9	2.7	2.6	-0.49	-0.02	-0.15	-0.09	-0.74	
橋渡し等	47	39	75	77	43	6	0	240	3.2	2.1	3.5	4.8	3.8	3.6	3.4	3.2	3.2	-0.25	-0.19	-0.14	-0.03	-0.62	
男性	139	78	171	172	93	16	2	532	3.3	2.2	3.5	4.8	3.8	3.6	3.5	3.4	3.3	-0.20	-0.13	-0.11	-0.11	-0.55	
女性	12	5	11	12	4	0	0	32	2.9	2.1	3.3	4.4	3.6	3.6	3.4	2.7	2.9	-0.02	-0.21	-0.69	0.27	-0.65	
社長・役員、学長等クラス	62	43	94	93	44	5	1	280	3.1	2.1	3.4	4.6	3.7	3.5	3.4	3.3	3.1	-0.20	-0.14	-0.10	-0.14	-0.59	
部長、教授クラス	57	30	66	65	36	8	0	205	3.3	2.2	3.5	4.8	3.8	3.6	3.6	3.3	3.3	-0.15	-0.06	-0.32	0.02	-0.52	
主任研究員、准教授クラス	16	3	13	9	8	1	1	35	3.7	2.4	3.6	5.3	4.4	4.3	3.9	3.9	3.7	-0.14	-0.36	-0.07	-0.21	-0.79	
研究員、助教クラス	6	0	0	2	5	0	0	7	5.4	4.8	5.5	6.1	5.0	4.3	4.0	4.0	5.4	-0.67	-0.33	0.00	1.43	0.43	
その他	10	7	9	15	4	2	0	37	3.2	2.1	3.6	4.6	3.6	3.3	3.0	3.6	3.2	-0.37	-0.21	0.57	-0.42	-0.43	
任期あり	52	35	94	92	43	6	0	270	3.2	2.2	3.4	4.7	3.9	3.6	3.4	3.3	3.2	-0.29	-0.21	-0.15	-0.09	-0.74	
任期なし	99	48	88	92	54	10	2	294	3.3	2.1	3.5	4.9	3.7	3.6	3.5	3.4	3.3	-0.12	-0.06	-0.14	-0.08	-0.40	
学長・機関長等	6	14	52	29	24	1	0	120	3.1	2.2	3.1	4.7	3.8	3.6	3.5	3.4	3.1	-0.13	-0.15	-0.14	-0.25	-0.67	
マネジメント実務	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
現場研究者	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大規模PIの研究責任者	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
国立大学等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
公立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
私立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
第1グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
第2グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
第3グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
第4グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
理学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
工学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
農学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
保健	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
あり(過去3年間)	100	53	109	116	55	11	1	345	3.2	2.2	3.5	4.7	3.9	3.7	3.5	3.3	3.2	-0.18	-0.14	-0.19	-0.13	-0.65	
なし	45	16	21	39	18	4	1	99	3.5	2.4	3.9	4.9	3.5	3.2	3.1	3.2	3.5	-0.30	-0.08	0.13	0.29	0.04	
あり(過去3年間)	55	11	40	54	22	6	1	134	3.6	2.6	3.8	4.9	3.9	3.9	3.6	3.6	3.6	0.02	-0.35	0.03	0.02	-0.28	
なし(分からない)	70	28	36	58	26	5	1	154	3.3	2.2	3.7	4.8	3.8	3.5	3.8	3.3	3.3	-0.34	0.30	-0.43	-0.04	-0.51	
全回答者(属性無回答を含む)	151	83	182	184	97	16	2	564	3.2	2.2	3.5	4.8	3.8	3.6	3.5	3.3	3.2	-0.19	-0.13	-0.14	-0.09	-0.56	

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q608. (意見の変更理由)基本計画の推進のため、必要な資源の確保や適切な資金配分等を行うための取組を、総合科学技術・イノベーション会議は十分に行っていると思いますか。

	2019	2020	差	
1	2	3	1	大学への資金、若手への資金など、課題がある部分への資金確保は進んでいると考える。(大学,部長・教授等クラス,男性)
2	4	5	1	科学技術・イノベーション基本法に,人文社会科学も盛り込まれた。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
3	2	3	1	若手研究者支援の新たな施策の実施など,迅速な対応がいくつか見られた。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,女性)
4	2	3	1	コロナ禍の中,Web会議が活発で,今後いい方向に動くのではないかと楽しみである。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
5	1	1	0	一部の研究大学での実施はあっても,それが広範には展開されていない。結果として,多分野で,実働する研究者&研究の数が増えない・減少しているのでは?(大学,部長・教授等クラス,男性)
6	1	1	0	国の科学研究・科学技術政策をどこに導こうとしているか,不明である。研究者は不安に感じている。(大学,部長・教授等クラス,男性)
7	2	2	0	ムーンショットなど,政府のスタンプドレイに科学技術研究が利用されるのは仕方ないとしても,それによって他の研究費に圧迫がかかる状態が発生していることを考えると,まともに機能しているとは言い難い。(大学,部長・教授等クラス,男性)
8	1	1	0	既存の枠組みにとらわれすぎている。(大学,部長・教授等クラス,男性)
9	1	1	0	総合科学技術,イノベーション会議は省庁の連携が悪いので,十分行われていない。(大学,その他,男性)
10	2	2	0	やはりサイエンスに対する投資の概念を定着させることから始める必要あり。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
11	1	1	0	総合科学技術・イノベーション会議のスタッフが能力不足ではないか?(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
12	1	1	0	報告書は読むが,インパクトを感じないのはなぜか,民間の委員か大企業の責任者やOB,業界代表の活動しているのでは。(民間企業等,その他,男性)
13	1	1	0	有名なだけで実のない委員が多すぎて,マスコミ受けすることしか言っていない。現実をもっとわかる人が考えるべき。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
14	1	1	0	自ら外部評価を受ける必要を強く感じる。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
15	2	1	-1	産業化に偏る傾向が顕著(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
16	5	4	-1	最近元気がない気がする(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
17	2	1	-1	以前に比べて,新規取り組みのアイデア創出や活動が活発ではなくなっている。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
18	2	1	-1	2019年7月の合同ミーティングは大学についての話で終わったため,産学官の話しまで進んでいません。コロナ禍以来,状況が視え難くなっています。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
19	4	3	-1	ここ2年ほど国家的に重要な研究開発の評価が行われなくなり,各府省の政策への影響が落ちている。(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,女性)
20	4	3	-1	・とりまとめ・調整的になってリーダーシップが弱くなっているように見えます。(民間企業等,その他,男性)

Q609. 科学技術イノベーションの社会との関係深化と推進機能の強化の状況について、ご意見をご自由にお書きください

- 1 総合科学技術・イノベーション会議の議論の内容は理解できるが、大学人に意識が浸透していない(大学, 社長・学長等クラス, 男性)

2 世界の中で比較すると、明らかに我が国の科学技術力やイノベーション力は落ちてきているのは否めない。また、結果論ではあるが、基本計画は少なくとも成功であったとは認められないのではないか。これは日本全体の問題(少子高齢化等)なのか、司令塔の問題なのか、それとも各セクターの問題なのか、もう一度、原点に戻って考える必要があるのではないかと。このためには、学術分野、人文科学の分野、(産業界以外の)民間分野の方々などの多様な英知を集めた検討が必要ではないかと。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)

3 優れた研究者の育成には、学部生から教養教育も重要である。研究には何度も失敗と挫折を繰り返して行われるものであり、教養教育は、精神的な免疫力を強化して、忍耐強い研究者を育成するうえで不可欠である。謙虚で誠実で忍耐強い精神を形成することにより、真の国際人として活動ができ、社会との関係の深化が可能となると考える。国際交流活動へのさらなる予算配分を望む。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)

4 政策・基本計画の策定にあたっての段階での乖離がみられる。従って、この段階での何らかの方策を考えなければならないと思います。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)

5 政策などの縛りや、優先項目の違いなどにより、金もうけ的な研究が推進されている。他が切られている。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)

6 そこに真剣なイノベーションのための”動き”がないと、リテラシーの普及も新しいアイデアも出てこないと思います。産官学民がwinとなった社会イノベーションに向けた幅広・強固・継続性のあるプラットフォームに産官学民が集結することが必要で、国はそれを支援すべきです。その報告に向かうように。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)

7 コロナの影響によりWebセミナーやミーティングの開催が増えており、海外出張せずとも情報交換を効率的に行える状況になってきたので、この状況を前向きに活用し、政府に対しては、海外連携の施策を打ち出してくれることに期待したい。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)

8 科学技術イノベーション推進の目的を、社会の構成者に広く理解していただく活動は不可欠と考えている。原子力発電所事故による災害、自然災害の被害、新型コロナウイルス感染症への対策において、リスクの共有が正しく行われていないことが明らかとなっており、学校教育においても、文系・理系にとらわれない、社会の構成員として不可欠な理解のための教育を行う必要がある。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)

9 海外の産学連携を学ぶイノベーション人材を育てることこそ必要。(産学連携部署教員の海外イノベーション施設、産学連携の先進大学等への派遣)(大学, 部長・教授等クラス, 男性)

10 日本ではデータサイエンス教育が遅れており、現在の大きなイノベーションを理解できない方が多い。そのため、デジタル・イノベーションの種が育成できていない。それで、デジタル技術の研究開発をスムーズに推進するために、個人情報保護法を含め、情報を共有化するプラットフォームが構築できる仕組みを制度化してほしい。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)

11 科学イノベーションによる実空間とサイバー空間との融合には、持続可能な社会像のビジョンが必要で有り、自然科学に加えて人文社会科学を含めた取り組みが重要で有る。大学等がこのビジョンを発信すると共に、人々の合意形成を進める施策が行われることで、はじめて推進機能の強化に繋がると考えられる。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)

12 科学技術イノベーションの金銭的な価値面だけが強調されるために、社会及びそこに暮らす人々との乖離が大きくなっていると感じている。科学技術がもたらす行動変容について、人文社会学的な見地からの検討と良い啓蒙が必要である。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)

13 自然、社会、人文を越えた教育(平たくは教養教育)の質を上げる必要がある。昭和、平成の教養教育レベルを維持してこそ、Part VIの項目が発展するものとする。Part VIの要素を追加するために何かを削ってはいけない。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)

14 イノベーションは研究分野・領域の「決め打ち」ではなく、広範な領域から生まれた知が分野を超えて結びつくところから、インパクトを伴って生まれると考えられる。「決め打ちテーマ」への集中的な投資は、周辺のビジネスには有用だが、多様な地球全体を相手にしたビジネス&イノベーションには力弱いのではないかと。「自由な発想」への広範な投資とともに、「分野を超えた知のぶつかり合い」への投資も必要と思われる。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)

15 イノベーションと社会の関係を深化させようとした結果、イノベーションの取り組みが画一的となり、結果的にイノベーションが起きにくくなるという矛盾を生じているように感じる。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)

16 やはりまだまだ科学技術情報やイノベーションは東京集中化が京阪神地区からみるとみられる。政府系委員なども積極的に京阪神系の大学からも登用し、全国の声をあらゆる施策に反映すべきである。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)

17 2018年12月19日、日本学術会議が「国際リーニアコライダー計画の見直し案に関する所見」を文部科学省に提出した中で、日本へのILC計画誘致を支持しないことを明らかにしたことはとてもショックである。基礎科学の充実、日本の将来を考えた場合(基盤整備としても)、とても重要だと思います。世界中の科学者があつまり、研究や議論をする場所が東北にでき、若者がその空気をを感じる。そのこと自体がとても重要であり、イノベーションの種をまくことになると 생각합니다。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)

18 科学技術イノベーション会議委員の構成を、新政権の下で刷新すべきである。現在は偏りがあり、その偏りが予算に反映されてしまっている。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)

- 19 研究者は、質問すれば必ず自分の研究の社会的意義について答えられるはずである。しかし、実際にはそうならない。つまり机上の空論となっている。きちんと研究成果を社会に実装した研究者を評価して、そのような活動の重要性を通じて、研究者がそのような活動を通じて社会リテラシーをあげる活動を推進すべきである。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 20 イノベーションとは、新産業を生み出す一方で、古い構造の産業を壊すという側面が語られてなさすぎる。スクラップ&ビルドのスクラップの覚悟がないのに生み出すことばかり強調するのは絵に描いた餅を語るだけ。古い産業に従事していた人材をどうリカレントするのもセットで考える必要がある。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 21 技術イノベーションと社会との関係強化・深化のためにメディアの役割を期待したい。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 22 経済的格差が教育水準の格差につながっているように思われます。経済的に厳しい環境にある環境においても高い教育が受けられるような道を拡充することが、多様性があり、かつ社会問題も理解できる研究人材を生み出すためには必要だと考えます。教育に関する投資を増やし、基盤部分での機会均等を実現しつつ、優秀な人材に対しては支援の傾斜配分ができるような仕組みが必要だと考えます。日本人の博士課程進学者が増加しないあるいは減少するといった傾向は、長期的には国家の科学技術力の基盤を弱体化してしまうのではないかと危惧しています。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 23 一部の大学では民間出身者を積極的に教員として採用しているが、一般的には世間と隔絶されたような人が多い。特に世界との接点で言うと、わが国は極端に弱い。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 24 政府に対する科学的助言の仕組みや体制は、一部の勢力の言いなりで有り、非常に偏った意見に左右されていると感じられる。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 25 イノベーションの本質の理解が十分とは思えない。イノベーションの生まれ方への理解が十分でない、制度設計もできない。自由度重視と方向性を持った規制的な動きのバランスが求められるが、要は人材で、今後の人材不足は大きく懸念される。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 26 大学における公的資金による研究開発は公開されており、関心ある者は誰でも見ることができる。企業の研究開発は公開されず、秘匿される。その中には利益不十分ということでお蔵入りとなったものもあるはずである。そのような技術に資金をつけて活用する道はないだろうか？(大学,その他,男性)
- 27 「日本学術会議会員候補」の6人が政府により任命されなかった。助言には耳の痛いこともある。政府に都合の良いことだけを言う学者、学者の政府のペット化が心配。(大学,その他,男性)
- 28 推進機能の強化はたいへん重要であるが、この方向での努力は足りないと思う。(大学,その他,男性)
- 29 ・関係深化には、学術の独立性が前提として重要であり、これが脅かされている現状は非常に深刻である。「社会との関係深化」という名目で学術に対する恣意的な介入を許しては本末転倒である。・社会との関係深化に関しては、それを専門とする方がいるので、その取り組みをもっと活性化させることで研究者を巻き込んでいくことが重要である。・1を10にするためには大型予算は重要だが、0を1にするためには多様性の確保が最も重要。後者の機能が弱いと考える。(大学,第1G,社長・学長等クラス,男性)
- 30 マスコミをうまく利用することが必要と思うが、マスコミの求める情報には偏りがある(一般市民に分かりやすいものを求める)。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 31 文系も少しは科学技術(最低限でよいので)を理解する努力をしないと、文理融合はむづかしい。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 32 軍事関連研究として我が国の防衛研究をも含んで実質的に禁止している状況(学術会議の声明に基づく大学の自己規制)は、自由な研究環境や科学技術イノベーションを阻害している。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 33 現在、大学の研究開発は防衛関係への寄与を認められていない。学術会議の答申もそのようであるが、研究者全般の意見を代表しているとは思わない。もっとオープンな議論があってしかるべき。特定の思想やイデオロギーを持つメディアや団体に政策が引っ張られているのではないかと感じる。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 34 科学技術と社会の関係性が不足しているのではなく、それを結ぶ主体となる立場の人間の不在が問題。それは一つには専門性に長けた決定権者の不足であり、これは十分な専門性への理解と権限を持った起業家の不足や、経営者の再学習の機会の不足でもある。新しいことを学ぶ余裕もない決定権者によって左右される社会は行き先を見失う。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 35 少々厳しい見方をすると、企業の含めた研究開発人材の能力が低下していると感じることが多い。大学や公的研究機関では、かなり高齢になるまで競争的な学術環境を直に接しているが、民間の場合はそのような人材がかなり少ない。これは、中堅社員に特に顕著である。この層の人材の活性化なくしては、イノベーションにつながるチャンスは広がらないことは明らかであり、企業内研修のみならず社会人博士課程などを充実して、新しい研究分野に参入できる研究者を企業内キャリアとして育てる(もしくは衰えない様にする)努力が必要である。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 36 文理融合や多様なステークホルダーとの連携の方向性は多く議論されるようになってきたが、言わば外圧で(あるいは輸入で)行っている感が否めない。日本の状況に合ったスタイルがあるはずで、その追求がなされていないように感じる。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 37 感染症モデルに関する自然科学者の社会リテラシーは様々な意味で問題があったと思うが、特に人文・社会科学の研究者との十分な対話がない自然科学分野の研究者がとても多く、それが問題を生んでいると思う。感染症はもちろん、遺伝子操作やAI、量子技術などの発展は、それが与える人間社会への影響、すなわち、倫理、経済、セキュリティなどの問題と不可分である。こうした意識を大学院生や若手研究者などのうちから十分に伝え、自然科学の研究者が人文・社会科学の研究者と十分に交流を持ち、頻繁に対話をし、時に連携して社会へのメッセージを発していくような体制を整えていくべきである。(大学,第1G,理学,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 38 教育機関なので社会とのつながりはもともと強いです。研究だけでなく学生や高校生の教育に時間がとれるようになると望ましいです(そのためには研究補助員などのサポートが必要です)。(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)

- 39 社会との関係については、専門家に任せるのが良いと思っています。研究者は研究に専念するのが望ましいです。あと、社会との進化においては、市民講座等をしていればなんとなくOKという風潮を感じ残念です。明確なアウトカムを設定し、それに対して取り組むのが良いと思います。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 40 個々の研究者の,研究に対する意識についての内省的な機会が必要と思う。「イノベーション」を全肯定する全体主義的な枠組みも慎重に見直す必要があるし、「科学技術」と「社会」ではなく、「科学」と「技術」,それぞれと人,自然との関わりに関する認識を研究者もそれ以外のステイクホルダーも深化させる必要があると思う。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 41 研究者のボトムアップとトップダウン(社会からの要請)の長期的な割合の指標が欲しい。どちらも大事で科学技術の内容で分けることは困難だが,より効率的にするのに,なし崩し的に(予算的に)トップダウン重視では,土壌が枯れる不安がある。全体的に,言いつばなしの風潮が強まっていると感じる。科学行政の専門性,担当者の腰を落ち着けて見えるようにすることも大事ではないか,これは政治の問題に絡む。(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 42 科学分野の各学会が科研費として申請するアウトリーチ活動資金を増額する必要があると思う。(大学,第1G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 43 最近,大学発のベンチャーが増えているように感じており,その点,ベンチャーキャピタル側の成長は著しいと感じる。ただ,それを促進するための公的機関の取り組みは大きくはないと感じる。国民全体での科学技術に対するリテラシー強化も長い目で見ると,科学イノベーションに対する適切な投資の目にもなるため,重要であると考え。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 44 博士取得者の減少傾向は変わらずであり,高度研究人材を社会が活用していない。行政のデジタル化に関してはコロナ禍が契機となってやっと政治主導で進められるようであるが,行政やサービス産業界も博士人材の活用を真面目に考える時期に来ている証左である。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
- 45 総合大学の場合には,文系学部と理系学部が同一または近隣のキャンパスにあるだけで,文理融合の印象を学生に与えている。プロパガンダと実効性のある取り組みのギャップを可視化して修正が行われる仕組みが必要である。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 46 もっと社会科学の振興を進めるべきである。(大学,第2G,その他,男性)
- 47 大学から離れ,高専での教育に従事した経験したから,科学技術イノベーションの考え方に連続性が必要と感じた。社会との関連を考え深める時に,小回りのきく小規模企業の視点を得られるのは地域との連携に他ならない。学生をはじめとする大学の大企業志向から,社会との乖離を進行させている。日本では未だに中小企業が小規模企業に劣ると捉えられて,大学でもそれに追随している。社会と密に接している,あるいはものづくりの最前線にある小規模企業活動での有用性を,起業家教育をからめて教育の中でも認識すべきである。多様な科学技術イノベーションが発展する土壌を育むには教育と企業活動かの歩み寄りが必要と考える。(大学,第2G,その他,男性)
- 48 日本学術会議にかかわる議論を見ても,まだまだ我が国では学問(学術)の役割が十分に認識されていないことがわかった。役立つ研究をしてくれればそれで良い,という程度の認識ではいけない。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 49 政府のコロナ対策の迷走(専門知の軽視,議論の透明性の欠如)や,学術会議の任命拒否問題を見ると,科学技術を社会的課題の解決に適切に用いるとか,人文・社会科学と自然科学の連携を強化するという方向とは,むしろ逆の方向へ進んでいるように見える。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 50 先端の科学技術が社会に影響を与える(貢献する)上では,社会の構成員全体の科学技術に関する知識をある程度要求するようになってくる。このためには,研究と同様に教育(もしくは教育的宣伝)の役割が重要になり,大学はこれを担う重要な機関としても機能する必要があると思う。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 51 科学と技術について合理的な判断ができる社会構成員が増えるように,高校での文系学生への科学リテラシー教育(場合によっては入試科目化)の重点化が必要だと思います。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 52 ちょうど回答している頃に学術会議のあり方についての議論が出てきました。学術会議自体については,何らかの変革があつてしかるべきかもしれませんが,学問の自由については守られるべきと感じます。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 53 アウトリーチ活動は,研究教育の本務に差しさわりのない範囲で,積極的に行っていくべきであると思う。研究教育に対する理解が,研究教育の環境をよりよくしていくのに効果があると思うためである。逆に言えば現状では足りていないと思うため,専門に取り組む人材と予算がより多く必要であると考え。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 54 既存の学会,既存のシステム,既存のやり方などの常識にとらわれすぎていて,優秀な新たな人材が入ってこない仕組みがある。学術会議が一つの例だろう。ゼロベースで,新しいシステムの構築が必要。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 55 研究領域の学会単位での,社会リテラシーの向上の取り組みや,活動,発信が重要だと思います。学会の数や規模を含め,研究と研究者の質が保証される組織の構築が重要な課題と考えます。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 56 CSTIの政策に基づく資金配分は特定分野に偏っていて,我が国の科学・技術の発展が「いびつな形」になっていると感じている。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 57 各セクターは機能しつつあると思われるが,俯瞰的な視点からの検討・実行は不十分である。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 58 マスコミを含めた情報発信側の教育。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 59 研究者は自らの研究成果・社会的意義を過大にアピールし,専門外の研究者,ましては一般人や政治家,メディアはその意義を正当に判断できない。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)

- 60 何をもって関係進化とか推進機能強化と見なすかにもよるが、今大学もそれを取り巻く社会もコロナ対策に追われていて、原因や一部の状況は共通している、残りの抱えている問題と解決案が異なるため、なかなか社会とのつながりを深める時期にはない。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 61 大学の研究成果は、以前にくらべて大学のホームページで公開される頻度が上がったと感じる。ただ、どのくらい反応があるものかわからない。(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 62 今回のコロナ禍で、科学者(大学生レベルで十分)にとつての常識が世間にまったく共有されていないことがよく分かった。政治家も科学者の言う事はまったく聞かずに、矛盾した政策で国民を混乱に陥れている。研究に閉じこもり情報発信を怠ってきた科学者にも責任はあるかもしれないが、正しい科学的知識・イノベーションが共有され、政策に活かされるしくみが必要だろう。(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 63 政策につなげるところで壁があるのでは？(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 64 日本は未だに縦割り社会である。科学技術の世界も全く同様で、孤立した村の集合体であると感じることが多い(例えば、本学では「文理融合」とは言葉だけが存在し、実態や積極的に歩み寄ろうという姿勢は皆無である)。日本の社会が根本的に持っている限界なのではないだろうか。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 65 メディアと科学技術の連携はコロナ禍のこの状況で非常に繊細となっており、これまでの歴史の中でも非常に大きく問われている状況であろう。そんな中では正しい情報の取捨選択が非常に重要となることは言うまでも無い。国は人選や何らかの選択を成す際にも必ず論拠を明確にし、メディアもそれに倣うことで、より国民全体のリテラシーも上がるであろうと考える。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 66 図書館など市民と学術機関が共に参加できる場で、SNSなどを通じた情報発信などがあると更に関係深化になるのではないかと思う。(大学,第3G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 67 コロナ下ではこれまでと異なる対応が必要となる可能性がある。(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,女性)
- 68 社会から科学技術イノベーションに対する理解を得るには、社会に対してわかりやすく発信することが必要である。一般社会に分かりやすく自分たちの研究を説明できるような訓練も必要と考える。特に医学系において重要である。医学系は、なぜ今の医学研究や技術が、社会にとって必要なかの説明責任を十分に果たしていない。(大学,第3G,保健,社長・学長等クラス,男性)
- 69 社会への情報発信に、積極的に取り組んでいる。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 70 社会との関係性に関する長期ビジョンが共有されていない。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 71 いわゆる科学技術イノベーションの推進にかかわる政策作りにかかわっている人々が、国立大学の存在意義や価値を全く過小評価しているようにしか見えない。大学院を修了した人の関与が、本当のイノベーション推進に貢献するはずだと思う。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 72 科学技術には自立した価値があることを社会の合意とする。そうすると権力に対して権威の対峙が可能となり、健全な社会が実現できる。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 73 科学的助言について、より広範囲に意見を聴取し、特定のバイアスによる偏りを極力減らし、国の将来に最も資する形で取り入れていただきたい。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 74 近年は、政府主導の方針決定、政策決定が横行している。公的研究機関は社会との距離がさらに開いている。そのように感じる。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 75 iPS細胞の医療利用や、AIの活用は、深く社会と関係していくと思われる。このような科学技術イノベーションと社会の関係を人文科学・経済学と一緒に予測する研究の強化も必要ではないか。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 76 科学というのは長期的投資として捉えるものと思うが、科学に携わる以外の人々が不況で余裕をなくしており、視点が短期的になっているのが現状の問題だと考える。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 77 高校の段階から文系と理系に分ける日本の教育システムが限界に来ている。科学を分かっている人が行政を指導しないと中国や欧米からどんどん遅れをとることになるであろう。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 78 ステークホルダー という単語になれない。何をいつているのか、もっと丁寧に説明してほしい。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,女性)
- 79 社会との関係深化のためのきっかけとなるような討論会、ステークホルダー間の会合などの機会を増やすような体制作りをしていく工夫を促す提言を期待します。(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 80 COVID-19 対策では科学者による提言は一定の効果はあったように思います。一方で、科学的に不正確な情報を流して不当に利益を得ようとするエセ科学者にストップをかけられるほどの効力はなかったように思います。(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 81 「それは何に役立ちますか」「いつ実用化できますか」という夢のない質問やそれしか興味のないステークホルダーは、科学技術を「企業経営の手段の一つ」としてしか考えておらず、本来のステークホルダーは国民であり、豊かな生活を送るための精神的満足度を科学技術で満たすことが望ましい。少なくとも上記の質問がなく、もっと夢を語る場があつてほしい。社会が学問(特に工学系)に対する寛容性を狭めてしまうと、生産的な話にしかならないことを危惧する(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)

- 資源がない日本にとって、大学こそが「資源」のはずです。資源はお金をかけて採掘したりすることで資金に変えることができます。しかし日本では、大学という「資源」に投下される資金は減っており、国際的競争力は明らかに落ちています。研究者はみな肌で感じていることだと思います。現在はまだ過去の遺産で国際的地位を保っていますが、10年後には日本の科学技術分野での国際的地位は格段に落ちていることでしょう。そのことを社会が認識していないと思います。研究者からの情報発信も足りないのですが、研究者は外部資金獲得やそれに伴う仕事の増加でそこまで手が回らないのが実態だと思います。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 82
- 83 努力しても、機関として推進してくれないので、個人としては力尽きることが多い。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 84 専門的知識は、専門家にしかその価値を理解できないものである。その価値を社会に説明する能力があることは望ましいが、そんな説明能力を磨く暇があれば、専門家として研究に没頭して貰った方が国としてはお得ではないか？ 一般的な研究者(専門家)が広く社会の人々に説明することは望むべくもなく、専門知識の社会との接合を説明できる(特殊能力)を備えた知能レベルの高い人間(コミュニケーターとも言われる)に説明できる程度でよいのではないだろうか？ 特定分野の専門家にそれ以上を期待するのは少し期待しすぎのようにも思う。適材適所で人間を扱えず、平均化して個性を潰しているように思う。近年は、社会との接合がとりやすい(わかりやすい)技術分野ばかりが優遇される弊害もできているように思うし、学者を装った詐欺師のような怪しげな輩も跋扈している。学者を装ったタレントや、学者のふりをしたアナリスト、学者のふりをしたコメンテーターが多い。彼らは学問を拓かない。外国では学者として扱われない。そもそも、学者の定義はなんであるのか？ 学校法にある「学識経験者」の定義はなんですか？(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 85 研究テーマによって理解されやすいものとそうでないものがあり、社会的インパクトが高い＝良い研究ではないということは強調しておきたい。ただし、研究活動を行う目的は社会の発展に寄与することであるから、社会との関係進化などについては研究者も努力すべきだと思う。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 86 必要な時期には、社会との関係は深化するものだと思う。必要のないときは、あえて、積極的に関わろうとしないだけのように思う。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 87 日本の社会において、サイエンスリテラシーを養う教育が十分に行われていない。初等中等教育の段階から、風評にまどわされず、正しさを判断する努力のできる人を育てることが大切である。(大学,第4G,農学,社長・学長等クラス,女性)
- 88 人文・社会科学及び自然科学の連携も大事であるが、科学リテラシーと社会リテラシーを高いレベルで備えた人材を育て活用することが必要であり重要と思う。(大学,第4G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 89 昨今は、科学者と非科学者との相互理解の不足が顕著になりつつあると思います。学術研究の有効範囲を国が狭めることは、未来の若者の選択権と可能性を狭めることに直結します。国が率先して学術研究の有用性を認め、安心して幅広い学術研究に取り組める環境になってほしいです。(大学,第4G,農学,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 90 社会との関係深化は重要な課題ですが、リーダーシップを取る立場にある研究者の中には、その認識が不十分で積極的に欠けるケースがあります。多様なステークホルダーとの議論が成功するためには、異分野との議論に必要な姿勢や知識を学ぶ必要がありますが、トップ研究者ほどそうしたことに割ける時間は限られています。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 91 倫理的・法制度的な理解をするリソースが少ないと痛感してる。関心を持ち自分で調べるようにしないと、なかなか詳しく知ることはできない。倫理や関連法規の講義や講習会を5倍程度は行わないと、底上げにはつながらないと思う。また、隙間時間をうまく利用する目的で、e-Learning、リモートの環境を進めてもらいたい。実際には有益な学びの場がリモート環境であることは知っているが、日常業務との狭間でなかなか利用しきれないでいる自分自身にも気がついている。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 92 これも外的外れかもしれないが、科学と社会の関係性をムリに深めようすると、研究者側への負担が大きい。理由は社会はそれほど歩み寄ってくれないからである。これまで以上の強化って本当に必要でしょうか？ 研究者は余計なことをせず研究のために時間を割く方がよっぽど社会貢献な気がします。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 93 イノベティブな仕事を生み出すためには沢山の知識を脳に詰め込むことが必要です。高校生と大学生に真面目に勉強させる環境を作ることが大事だと思います。具体的には、バイトに頼らなくても学費と生活費は不足しない状況を作る。大学で勉強する気持ちのない人は大学に入れない、学部在学中に勉強しない人をもっと留年・退学させる、大学の授業は教科書の内容を学生の頭に入れる湯呑み方式ではなくゼミ形式をもっと採用する、必須科目を減らして自分が大学で勉強する内容の責任は自分で取らせる、哲学・歴史・数学といった教養科目を復活する、という案はいかがでしょうか。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 94 大学としては地域の企業や県とのコラボレーションを重視しており、その姿勢は伝わっている。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 95 少子化で国力が低下すれば、科学技術も他国に抜かれますが、スーパーウーマンではない普通の女性が普通に出産して普通に働ける環境整備は一向に進んでいません。女性が出産を選択できる社会にすることは、少子高齢化から来るあらゆる問題を解決し、我が国が強くなれるものと思います。科学技術の発展も、もちろん含まれると思います。次ページの、人文・社会学系との関わりの項目に自由記述欄が無いので、ここに書きますが、人が幸せに生きていくために科学技術があることを、人文・社会学系の研究者と一緒に、将来を担う子供達に伝えていって欲しいと思います。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 96 大学教員の数が減っており、大学院進学学生も減っておりますので、社会との関わりを持つ余裕がなくなっているように思います。一方でメディアにうける「自称研究者」の意見が社会にインパクトを与えています。小学生、中学生のうちから科学論文の批判的読解ができるようになれば良いと思います。現在の小学校・中学校の教員ではこの指導は困難でしょうから、その部分のみ大学教員を使うことも可能です。小学校・中学校という早い段階から論理的思考能力を身に着けなければ、世界に通用する人材は育ちません。(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 97 多くは変わってきている印象。政治が踏み切れればさらに改革は進みそう。(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 98 画期的な取り組みをしようと思うと事務面でも大変になる。SD教育もしっかりしないと研究者側だけでは負担が大き過ぎて対応できないのが現状だろう。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)

- 99 今般の新型コロナの感染拡大防止等に係る政策立案に対して、専門家の提言が必ずしも活かされていないことなどを考慮すると、政府に対する科学的助言の仕組みや体制についての検討が改めて必要。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
- 100 このアンケート回答時に総理大臣の日本学術会議委員任命拒否のニュースがメディアを賑わせている。この騒動を見聞きすると、我が国では社会と科学の関係が全く未成熟であったことを認めざるを得ない。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
- 101 物的な富しか見えていないのでは、人間の幸福について考える時期が欠如している。教養の欠如,劣化が残念。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 102 対話の機会は増しているように思うが、良い効果を生んでいるのかどうか分からない。(大学,大学共同利用機関,研究員・助教クラス,男性)
- 103 社会的弱者との関係深化に関しては予算がつきにくく、経済的な社会実装に関して動くお金は大きいという傾向がある。また、労力や時間も前者のほうがたいへん。そのサポートは重要。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
- 104 学術団体は本来、研究成果がある人材で構成されるべきであるが、役人が使い易い有識者が重用されており、日本の科学技術の将来が危うい。イノベーションを生むような社会は常に変革を実施できるような組織がマネージしないと世界で戦っていけない。特にハードの施設を持たないJSTのような組織は前例に由って判断するような役人的発想ではなく、基本的に民間企業からの人材で構成し、多様性を持ち幅広く討議するような組織でないと社会にニーズに応えられない。繰り返しになるが、JSTの理事長は民間企業の人材を当てるべき。(公的研究機関,社長・学長等クラス,女性)
- 105 科学技術の進展とイノベーションは同じではないが、一般には同列に扱われており、それが「効率化重視」の施策を行ってきた原因ともなっている。科学,技術,イノベーションの社会における役割や位置づけの再定義とそれに基づく検討が必要ではないか。現状のまま(再定義なし)では、議論は深まらず、泥沼状況から抜け出すことは困難であろう。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 106 結果がすべてで、研究結果により豊かな社会が形成されて初めて国民に評価されるため、なかなか成果の出ない研究の途中過程を上手く国民に発信する能力が研究者に問われていると感じる。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 107 リスクコミュニケーションが重要と言うが、多くはサイレントマジョリティであり、当該分野(例えば原子力)に対して無関心である。意志決定に際して、この層との対話が重要なのか否か?の分析は必要と思われる。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 108 公的研究機関・大学と民間企業との連携では、公務員の倫理規定やCOIが問題になることが多いと思いますが、産学連携を進めるうえで、もう少し風通しの良い風土を作っていく必要があるかと感じます。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 109 昔と違って、異なる世界の様々な情報は、それなりに入手でき、人的交流もできる。連携による取り組み自体は、その気があれば大きな壁にならない。しかし本当に必要なのはそこではなく、科学の基礎をいかに伸ばせるかが最も重要。基礎を伸ばさずに横の連携だけ強めても、頂の高さは変化しない。課題は解決しない。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 110 市民社会と科学技術イノベーションの関係進化について、現場では進めるべきとの意識は高まっているが、近年の世界的な政治的な動きが、これを抑制的にしているように思われる。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 111 多様なステークホルダーからの意見については型通り聞く機会は作っているが、その対話で生まれたアイデアなどが実現していくスキームは取られないことが多い。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 112 一時的に流行るが、目立った成果にならないため、トーンダウンしているように思われる。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 113 画一的なイノベーションではなく、組織の特徴を活かすことが重要。大学の役割は多くのシーズを生み出すことではないか。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 114 資金導入のために国民,企業も含めて自己の研究のアピールなどは必要。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 115 企業,大学,国研の人的な流動が盛んになる仕組みが必要。現在の日本のシステムは頑張る人が苦勞するだけで、その分,リスクも増える。何もしないことがマイナスになるように、リスクを取って頑張る人をもっと評価する仕組みが必要。次の世代の人達のためにも行うべき。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 116 新型コロナウイルスでは、情報が混乱。メディアに社会が振り回される部分もあった。アカデミアからも「?」のつく発信もあった。あつという間に関係性が壊れてしまう。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 117 総合科学技術・イノベーション会議は大学の一般教員に実情をアンケートなどで良く聞くべき。選ばれた大学人の人達だけに任せないこと。官僚の書いた下書きを認めるだけではいけない。良く精選した人材であっても1割ぐらいは働かない研究者が居ても許される位のゆとりを持った組織から新しい発想が生まれると思う。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 118 現在、自然科学の研究者として社会科学研究との連携を構築しているところであるが、大学および大学院における相互に関連するクラスが不足していると感じる(基礎知識の欠如)。特に社会科学分野に自然科学との連携の意識(特に知識の取得)が低い。(公的研究機関,部長・教授等クラス,女性)
- 119 交流のイベント的なものが多数行われているが、イベントを行えば理解が進むのかは不明である。どのような状態を目指し、その状態に近づいているのかを確認する手段が必要である。イベントに参加すると、何となく交流でき満足感もあるが、結局は研究時間をひっ迫し、論文生産性が落ちる現実がある。(公的研究機関,部長・教授等クラス,女性)
- 120 日本だけでなく国際的な動向を知る努力が必要と思う。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 121 応用研究についてはよいが、先端的な基礎科学研究とは馴染まない施策だと思う。世にあふれる「プレスリリース」もこの施策の一部であると思われるが、その9割9分は一般大衆にとって興味のない物であり、研究者の出世の役にしかたっていないのが現状である。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)

- 122 国民に理解を求めるのは研究者の仕事ではない。最先端の科学と一般人との間に立つサイエンスライター等のコーディネーターの活躍を期待する。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 123 菅総理がすべてぶち壊した。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 124 世間知らずの研究者にいろいろ背負わせようとしてもうまくいかないでしょう。それができるほど器用な人は、大学院なんかに進学せず、普通に社会に出ています。だからといって大学院生に社会経験を積ませようとして変な制度を作るのは愚策です。肝心の研究力が育ちません。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 125 TwitterなどSNSが、研究者の情報収集ツールとして非常に役立っている。また、研究者以外の一般人ともつながっているため、問6-3のような機能を果たしている。ただしこれは自発的なもので、政策とは無関係であるし、逆に上から強制されるようになるとつまらなくなるので現状で良いと思う。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 126 成功事例を作っていくことが肝要かと思います。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 127 特に、中国が大幅な資金を投入し、各項目で独占の傾向ですので、我が国は、資金の効率的活用による成果の最大化を目指す仕組み作りが必要だと思います。強化はされているものの、相対比較なると厳しい。(公的研究機関,その他,男性)
- 128 コロナ禍は色々の問題点を明らかにした。これを好機として大胆な施策を考案し実行に移していくべきと考える。(公的研究機関,その他,男性)
- 129 こちらも、変更は無いが、講演や取り組みを目にする機会は増えた。国の取り組みがあったのだと思うので、促進を続けてほしい。(公的研究機関,その他,女性)
- 130 科学技術イノベーションを考えた場合、如何にグローバルな視点で社会(企業)にアプローチしていくかが非常に重要だと思います。海外では科学技術を活用したハイテクベンチャー等が躍動していますが、我が国では同様のケースを見ることは稀です。現在の日本においては、絶えずグローバルな視点で考えることが大切だと思います。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 131 学が入るとうまくいかないことが多い。現実のRealityを理解できていない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 132 人文系の先生方は殻に閉じこもりがちで、リテラシやELSIなどに対して興味のある先生方が少ない。ご自身の専門とはすこし遠いかも知れないが、是非協力していただきたい。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 133 この分野においては変化は感じられません。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 134 政府はもっと良い文教政策立案と実施にあたり、社会全般もよいが、実際に大学運営に関与してきたOB(元大学での学長、副学長など)の意見を取れるような機会を増やすべきである。特に独法化の方向性立案などに関与して世代(やや高齢であるが)の意見を取れる機会を作るべきだ。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 135 政策として、イノベーション支援が不十分(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 136 科学技術イノベーションの社会との関係深化と推進機能の強化の状況への理解は大事だが、新型コロナウイルスの流行に象徴される社会への理不尽な影響ファクターについて研究者集団としての発言や行動があってよいと思う。本件アンケートは継続性を重んじる定点観測であるが、上記事項に言及がないことに違和感を覚える。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 137 科学技術は常に発展途上段階であるので、法令、政令でルールを定めても、3-5年後に担当省庁だけでなく、市民を含む利害関係者で見直しを行うことを義務づける。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 138 大学側、研究者の態度にも、非常に問題がある。例えば、コロナウイルスに対するワクチンの開発など、急を要する研究開発に、国として特別プロジェクトチームで、期限を決めて対応すべき。その後、民間企業へ就職させ、その人材が定期的に交流するような仕組みをつくり、オールジャパンの体制づくりが必要。国側、民間側という発想はもう死んでいる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 139 科学技術イノベーションの社会との関係深化には、きちんとした情報発信が必要。HPにわかりにくい情報を流すのではなく、きちんとした番組で情報を開示すること。また、科学技術イノベーションの社会との関係深化に関する論文を科学雑誌にきちんと報告することが大事。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 140 新型コロナ感染症の時に明らかになったように、日本では、政策決定、マスコミによる社会への情報提供、社会的なコンセンサス作りにおいて、専門家の意見が非常に軽視されており、これが日本でイノベーションが起こり難い原因の一つになっていると考える。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 141 地方の一般人は全くと言っていいほど活動の情報が入ってこない。どの様に情報を入手したらよいかもわからないのが実態ではないのか。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 142 今回の学会会議の問題を見て、政府の愚かさがよく分かった。この政府は全体主義を目指しているのか。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 143 海外戦略については、海外における知的財産権の確保などが予算的な問題で難しいといった話も聞く、技術流出の点も懸念されるため内容の精査は必要であると考えますが、審議会などで出願基準を示し強い技術にすべきと考える。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 144 地方では行われている例もあると認識している。特に震災を経験した東北では活発なように感じる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 145 イノベーションのためのさらなる官民投資と、企業と学・官との人材の交流、移動(派遣や転籍や転職)が普通となるような文化・環境の醸成と、これらを進める核となる人材の育成がやはり重要であると考えます。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)

- 146 上はいろいろと考えているでしょうが、現場が動かない。聞けば「やっている」というでしょうが、5年たって成果を聞いてみると、何もでてこないで、やったふり、ということがわかると思います。すなわち、「やれ」と言われたら「やる」けれども「やる必要性は感じていない」ということでしょうか。「やるためのリソース(人(能力)・金)が無いということも大きな理由だと思います。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 147 有識者と言われる人も、日本の将来に向けての改革を提言していない。大企業の存続が危うい中、大企業の良き時代の経験者の助言を重視しているから改革が進まない。世界の中の日本,少子高齢化が急速に進む日本,を直視して,生き残り策を検討する姿勢に欠ける。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 148 それぞれの対話の機会は増えてきていると考えていますが,さらに深化させるためには具体的な取り組みを積極的に推進することが重要だと思います。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 149 産学の考え方の大きなギャップの理解が不十分(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 150 科学技術と人文科学との連携,科学モラルの構築,政府への提言,国民への啓蒙といった活動が 現在の「学会会議」では恣意的になりすぎ,その任を果たしていないという点を踏まえ,海外を参考にして新たな体制を作るべき。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 151 科学技術立国の日本が遅れている気がします。なぜか,やはり大企業が失速しつつある中,私たちベンチャーも頑張っていないと思います。(民間企業等,社長・学長等クラス,女性)
- 152 組織が重層構造であり,かつ,市場最前線で顧客に接するような方はほとんど見られていない。産業に直結した成果を排出するためには,現実で起きていることをベースに,国中の知恵を総集結させるような体制を構築するべきである。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 153 俯瞰的な方針,助言も重要であるが,多様性を受容できる施策も必要と感じる。ゲームチェンジングなテーマの発掘には枠や時間に捉われない取り組みも必要であり,そのような取り組みへの支援・施策実施も引き続き望みたい。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 154 最近ではコロナ禍で厳しいと思います。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 155 イノベーション政策に力を入れているのは分かるが,イノベーションは生まれているのだろうか。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 156 (実際の目的に適った)司令塔の不在は致命的。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 157 倫理的・法制度的・社会的課題は科学技術の進歩に制限を与えることもあるので,その舵取りが国のなすべき最も重要なことと感じる。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 158 省庁縦割りのような同様な施策もあるので,総合科学技術・イノベーション会議等がライフサイエンス系も含めて更に統合的に推進すべきである。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 159 イノベーションは技術だけでは起きない。教養に属する社会への深い洞察と課題意識が必要。大学受験時に理系,文系と別け,それぞれの知識体系が個人で同居しがたい教育システムに限界を感じる。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 160 再生エネルギー,海洋資源開発など国民の生活や日本の産業持続性を考慮した長期視点での研究投資をもっと増やすべき(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 161 科学技術イノベーションを社会にインストールするには,今後の社会的課題にもっと重みを置いた調査研究が必要ではないか。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 162 政府は基礎研究の充実,研究基盤の充実,人材育成施策の強化,国際標準化活動の推進,規制緩和等イノベーション阻害要因の除去に務めるべきである。政府による出口を指定した研究開発への投資はイノベーションにはつながらない。そこは民間,ベンチャー企業に任せるべきである。民間やベンチャー企業が死の谷を乗り越えるための支援の仕組みは考えて欲しい。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 163 我が国における科学技術イノベーションの重要性や必要性を社会が認識する必要がある。科学技術に対する社会の認識が低すぎる。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 164 審議会などが,本当に機能しているかどうかのチェック機能が必要である。名のある審査員,委員,または官僚にとって都合のよい審査員,委員によって,わずかな回数 of 審議会でものごとが決まってしまうところがあるが,本当に責任をもってやっているかどうか疑問である。形だけのものもあるのではないかと感じる。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 165 内閣府によるSIPなどの取り組みによる効果計測と,計測結果の分析・考察と,初期目標の更なる実現に向けた改善議論と公表がなされると良いかと思えます。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 166 科学技術イノベーションについて,社会はまだ関心が薄いと感じる。大学での研究成果について,多くの国民が知る機会をもっと増やすことが必要だと思う。そのような機会は重要ではあるものの,何よりもイノベーションのベースとなる基礎研究にもっと重点を置き多くの予算を配分することが,イノベーションの早道だと強く感じる。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)

- 経験上、イノベーションは、他でやっているベストプラクティスを真似したり、他から言われて、やるものではなく、当事者の内面から沸き立つ課題解決の上になり立つものである。つまりは、自発的にやりたいことをやっており、強烈な意味付け(何のためにやっているのか？ビジョン)を持っているため、それ故に、困難な局面においてもモチベーションは枯れない。故に成功への確率は高い。逆に他人からの要請では、どんなに良い目的であっても、共感性がなければ、成就し難い。イノベーションの結果が、社会の要請に合致するかどうかの判断は、市場での活用(ファン)があれば、まずはそこから視えてくるものがある。その土台が出来上がりつつある段階で、社会とのリアルなどを行える機会があると、新たな展開が創出される、その時の推進深化は、計画策定はあくまでも軽くしておき、行動時に発生する修正や気づき、発見を重視する。推進機能強化の名目で、綿密な事前計画策定や予想財務管理で縛ってはいけない。その時点でイノベーションは、イメージがフォーマットに合うように適当な形(数値化)に収斂されて、実態が視えなくなるし、コモディティ化してしまう。よくある失敗企業が行うやり方として、進捗管理での計画と実態の差に議論を集中させてはいけない。環境は急速に変わるので、差分の理由のしつこい追い込みは、無駄な行為であり(計画はそのときの予測であり、リアルではない)、行動から発生する予想外の実事や発見、インスピレーション(気づき)、貴重な時間を失うことになるので、絶対に注意したいところである。このあたりは、ステークホルダーや外部関係者には、やっていることの見える化は必要だが、自由度があるように周知するところでもある。最後に、社会との関係深化において、もうひとつ重要なポイントは、社会に伝搬させるスピードである。イノベーションが一般にわかりやすく、つかいやすくなることは、社会万人との関係を深化させるための、重要なファクターであり、その伝搬スピードを早めることは可能で、いずれ拡がり具合は、数字として表現され評価される。もしその具現化した技術(製品)をコアにして【続く】
- 167 各社メーカーが製品やサービスを付加して、様々な新しい市場が創出された場合、社会との関係が深化したと言ってよい。以上、イノベーションと社会の関係は、創造と伝搬、この二つの要素で表現される。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 168 若手に、テーマの探索から自由な研究をまかせることができる拠点形成も考えられると思う(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 169 日本がリードするサステナビリティ等の国際会議は着実に増加しているが、それらが国際社会に与える影響力が増大しているのかどうか検証が必要と考える。著名人が集まって討議するだけではなく、守らなければならない明確な目標をたてフォローすることが必要ではないか。(民間企業等、部長・教授等クラス、女性)
- 170 科学技術がイノベーションにつながっていくためには、企業との連携がないと難しいと思います。だからといって、イノベーションにつながる研究に多くの予算が分配されるのは、画一的な研究に陥ることになり、好ましくありません。企業から見て、大学や公研に求める研究開発は、しっかりとした理論構築できている事です。それがあるから、大学にご相談に何うのです。大学での研究がイノベーションになるかどうかは、企業につなげて、社会実装できる仕組みづくりが必要です。(民間企業等、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 171 日本学術会議の例を出すまでもなく、人文社会系の学術研究者の努力が、社会の発展でも学術の振興でもない奇妙な政治的な方向を指向する傾向が昔からあった。学術界の特に所謂文系は、政治イデオロギーに奉仕して社会と学術の発展に尽くす方向性から外れてしまうことに力を使うよりも、研究と教育の本分に注力すべきである。(民間企業等、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 172 科学技術イノベーションにおいて、わかりやすい分野(自動運転技術等)は認知度も高く、社会との関係は進化していると考えられる。しかし、社会基盤を支える基幹産業分野等では、社会との関係深化は必ずしも十分とは言えないと考える。当該分野に関わる研究者そのものの減少は大きな課題といえる。基礎・基盤研究にもしっかりと焦点を当て、産学間の連携や研究予算の配分に関する施策も必要と考える。(民間企業等、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 173 社会への説明は必要ではあるが、世論に迎合せず将来を見通す必要もあるのではないか。(民間企業等、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 174 社会も技術も複雑化しており、その両方ある程度のレベルで包括的に理解する為には多くの時間と労力が必要である。この努力を行って、俯瞰的・包括的に理解・判断できる技術者やマネジメントスタッフが不足している。(民間企業等、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 175 専門分野のイノベーション会議に何度か出席したり、出席している人から内実を伺ったりしましたが、議論をリードしたがる人の多くは利権を得たい人のようで、残念ながらあまり効果的に役割を果たしているようには思えません。逆に利権を得たい人たちには有用な場となっているようです。大変皮肉なことです。(民間企業等、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 176 ・関係府省庁を全体俯瞰したリーダーとしてより強化に推進されることを期待します。(民間企業等、その他、男性)
- 177 総合科学技術・イノベーション会議は専従事務局が依然貧弱なうえ、常勤議員も削減され、司令塔機能は限定されている。日本学術会議の会員任命拒否問題は、政府の高圧的な姿勢のみ示して、学術会議の本当の活用からは離れる一方ではないか。新型コロナウイルス感染症や地球温暖化などの問題をみても、日本は諸外国と比べて政府と科学・学術界の距離が遠すぎる。これでは「科学技術イノベーションの社会との関係深化と推進機能の強化」と言ってもむなし。(民間企業等、その他、男性)
- 178 委員を公募制にするか、このようなアンケート方式にするか、多様な意見を述べる機会を作ってほしい。(民間企業等、その他、男性)
- 179 科学技術イノベーションは必要であるが、近視眼的な施策とならないよう十分検討してほしい。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
- 180 コロナ後の社会におけるイノベーションを構想する機能が政府に欠けている。内閣府も〇〇〇〇、〇〇、〇〇〇〇といった経団連傘下の大企業の経営陣の腰掛け出向先になっており、出身業界の利益にのみ関心を持つ人が多く見かけられる。政策を抜本的に見直すためには、大規模な内閣府改革が必要ではないか？(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 181 新型コロナウイルス感染症問題について、科学者の助言機関はあったが、それを政策に反映する過程が不透明で有り、無視されているか、隠れ蓑にされているように見えた。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 182 ありたい姿、目指すべき社会像を明確にして、バックキャストして課題を設定するという思考方法をもっと一般化し、普及させる必要かと思えます。(民間企業等、その他、男性)
- 183 有能な研究員が日本を敵国と位置付ける中国に渡っている。文科省はまず国防を第一に考えるべき。(民間企業等、その他、男性)

